AMDA ジャーナル ー国際協力ー　2018 年夏号 付録　2018 年 7 月 25 日発行　□発行定日　年 4 回（1・4・7・10 月 各 25 日）□ 1995 年 11 月 27 日　第三種郵便物認可

AMDA 年次報告書

2017.4.1 ～ 2018.3.31

メキシコ沖地震緊急支援活動

紙面編集の変更のお知らせ

AMDA は発足 30 周年を迎えた 2014 年、世界平和パートナーシップ（GPSP）構想を発表しました。基本理念である「開かれた相互扶助」など 3 つの柱を具現化したもので、これまで取り組んできたプログラムを「平和構築」「健康増進」「教育支援」「生活支援」の分野に分け、活動を推進していくものです。

今回から年 1 回発行の「年次報告書」について従来の編集方針を一新し、この 4 分野に分けて順次、活動内容を報告させていただきます。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

平和構築

難民支援事業

緊急支援

■ロヒンギャ難民医療支援活動

◇実施場所　バングラデシュ・コックスバザール県 ウキヤ地区クトゥパロン難民キャンプ

◇実施期間　2017年10月～継続中

◇派遣者　橋本千明／看護師・調整員／AMDA本部職員、米田哲／医師／AMDA ERネットワーク登録メンバー、菅波茂／医師／AMDAグループ代表、山本太郎／医師／長崎大学熱帯医学研究所、野口幸洋／調整員／NPO法人TMAT、アリ・カダール／医師／UNRWA（国連パレスチナ難民救済事業機関）、ヨゼフ・ファスムス／医師／UNRWA、押谷晴美／看護師／AMDA ERネットワーク登録メンバー、竹谷和子／調整員／AMDAボランティアセンター事務局長

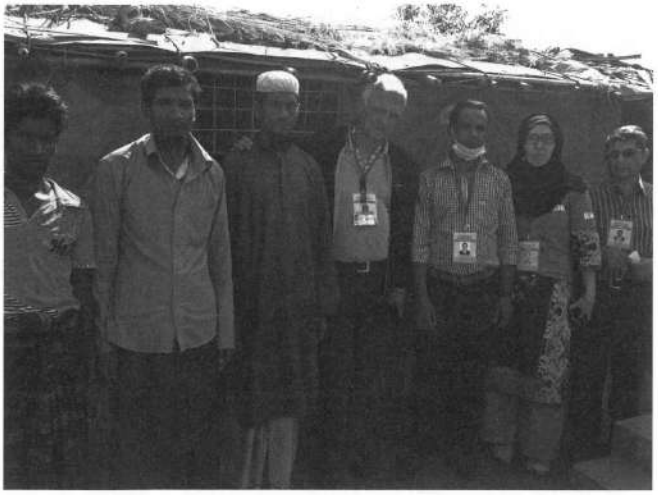
◇現地での参加者を含めた事業チーム構成

AMDA本部、AMDAバングラデシュ支部、日本バングラデシュ友好病院

◇受益者数　延べ16,020人（2017年度）

◇受益者の声

「誰かに襲われるという恐怖から解放され、家族と安全に暮らせる環境がありがたい。ここバングラデシュに避難してきてよかった。」



◇事業内容

2017年8月末以降、ミャンマーから隣国のバングラデシュに逃れるイスラム系少数民族・ロヒンギャ難民は増加の一途を辿っており、以前からバングラデシュに住む難民20万人と合わせると、その数は約90万人と推定されている（2018年3月18日国連高等難民弁務官発表）。難民キャンプでは収容能力を大幅に超える人数が限られた範囲で生活しており、キャンプ内の水や衛生環境などの基本的な支援が不十分な状況が続いている。

AMDAは、上記状況を受け、AMDAバングラデシュ支部と日本バングラデシュ友好病院と共にロヒンギャ難民に対し1年間の医療支援活動を決定。2017年10月に難民キャンプ内に診療所を開設以降、AMDAバングラデシュ支部より医療チームを構成し、常に10人前後のスタッフが、現地で無料診療と医薬品の提供を行っている。1日あたり平均120人前後の患者が受診している。

AMDAからも2017年11月に、難民キャンプに本部の看護師兼調整員を派遣。続いて3月までに他団体の協力も得て、菅波AMDAグループ代表を含め計9人を派遣した。12月に派遣された米田医師は、一緒に活動したことのあるAMDAバングラデシュ支部のスタッフがこの支援活動を始めたことを知り参加を希望。現地支部の責任の下、患者の診療を行った。

また、2018年2月、パレスチナ難民の保護と支援を目的に設立されたUNRWA（国連パレスチナ難民救済事業機関）とAMDAは連携協力協定を締結し、難民として育ち支援を受けてきたからこそロヒンギャ難民を支援したいと、UNRWA医師2人もこの活動に参加した。同時期に日本からも押谷看護師が派遣され、難民の方より、「誰かに襲われるという恐怖から解放され、家族と安全に暮らせる環境がありがたい、ここバングラデシュに避難してきてよかった」と心境を伺った。

難民支援事業

復興支援

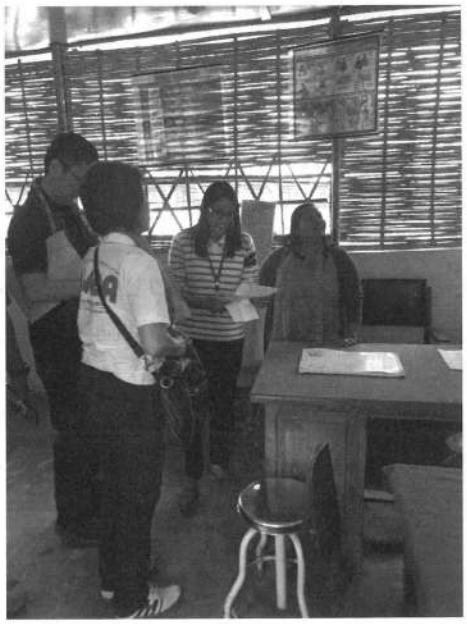
■ネパール・ブータン難民医療支援活動

◇**実施場所**　ネパール・ジャパ郡、モラン郡内難民キャンプ及びAMDAダマック病院（2017年度）
◇**実施期間**　1992年～継続中
◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成**
AMDAネパール支部
◇**受益者数**　延べ約8,000人　（2017年度）
◇**事業内容**

AMDAネパール支部は1992年、ネパールへ流入してきたブータン難民に対する医療支援事業をジャパ郡ダマック市で開始。1995年、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）より正式な委託事業として、AMDAが本格的に主導していくこととなり、30床の「AMDAダマック病院」はブータン難民及び地域住民への医療サービスの提供を開始した。

さらに、2001年よりAMDAネパール支部は、ブータン難民キャンプにおける一次保健医療を、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）から委託され、各キャンプに活動拠点を設置、最大約11万人の難民を対象にプライマリーヘルスケアサービス（一次診療サービスのほか、妊婦検診、予防接種、栄養補助食料の供給等）を提供してきた。

現在は難民人口も当時の約1割に減少しているが、キャンプ内での活動は継続。キャンプ内の一次医療レベルで対応できない患者については、二次医療サービスを提供するAMDAダマック病院等へ搬送するなどの対応を行っている。



■スリランカ平和構築プログラム

◇**実施場所**　スリランカ・マータレー
◇**実施期間**　2017年8月5日～7日
◇**派遣者**　菅波茂／AMDAグループ代表、ニッティヤン・ヴィーラヴァーグ／AMDAインターナショナル事務局長、竹谷和子／AMDAボランティアセンター事務局長、三宅孝士／赤磐市職員（AMDAに出向中）、山﨑希／AMDA職員、橋本千明／AMDA本部職員

◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成**

AMDAスリランカ支部、St. John Ambulance、スリランカ・マータレー Kauduepelella Sinhala Maha Vidyalayaeの中学生、キリノッチ Viveganantha Vidyalayamの中学生、トリンコマリー Mutur Central College、St, Mary's Collegeの中学生、それぞれの引率の先生、日本からAMDA中学高校生会メンバー4人、現地大学日本人留学生1人、元AMDA中学高校生メンバー1人

◇**受益者数**　76人
◇**受益者の声**

「民族を超え、自分達とは違う世界に出会うことができ、いい機会をいただいた。とてもいいプログラム。」
「他の国の人達、いろいろな宗教の人々とコミュニケーション能力、文化の交流、言語などのスキルを伸ばすこともできるので素晴らしいプログラムだと思う。平和についてつながるいい機会をもらえてありがたい。」
「平和について色々な角度から考えることができた。」
「人の温かさを感じ自分の心が癒されていくような研修だった。自分自身凄く成長できた。言葉が違っても平和を望む気持ちは同じ。手をつないでくれて現地の人の温かさを感じた。」

◇**事業内容**

2011年から始まった異なった宗教、民族の生徒たちが交流するスリランカの「平和構築プログラム」が8月5日から3日間行われた。

悲しい内戦の歴史を乗り越え、次世代の意識改革を目標としており、2013年からは現地の人々に加え、日本からも高校生が参加。AMDAの理念である“多様性の共存”

を学ぶプログラムとなっている。

2017年度の開催地は、スリランカの中部の山間部の町・マータレー。参加したのはマータレー、キリノッチ、トリンコマリーの3地域の生徒と、AMDA中学高校生会のメンバー。

スポーツ・アート・カルチャー交流では、学校も性別も宗教も言語も関係ない混合チームで競い合い、様々な活動に取り組んだ。2日目のキャンプファイヤーも夜が更けるまで盛り上がった。

別れの時は言葉を交わして抱き合い、瞳から涙があふれていた。生徒たちの顔は、過去に起こった悲劇は繰り返さない、宗教や民族、言葉が違っても仲良くできるという自信で、輝いていた。

災害支援事業

緊急救援

■ペルー洪水緊急医療支援活動

◇実施場所　ペルー・リマ郡、カンタ郡、ピウラ郡、モロポン郡、ピラウ市内合計6カ所

◇実施期間　2017年4月1日～13日

◇派遣者　渡久地宏文／医師／AMDA沖縄メンバー、松永健太郎／調整員／AMDA本部職員

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成

AMDA本部、AMDA沖縄、AMDAペルー、Socios En Salud

◇受益者数　512人

◇受益者の声

「なかなか水が引かなかったので大変だった。医師に診てもらえてよかった。」

◇事業内容

海面水温上昇によるエルニーニョ現象で2017年に入りペルー各地で豪雨が頻発。洪水や土石流が発生するなど被害が続出した。ペルー国家緊急オペレーションセンターによると、現地時間4月5日現在で106人が死亡、15万7600人が被災した。

最も被害が大きかったペルー北部ピウラでは川が氾濫し、多くの世帯で水や食料が不足。首都リマでも5本の川が氾濫し、市内に水が流れ込む過去最大規模の洪水となった。

AMDA本部は2017年3月21日、AMDAペルー支部から支援要請を受け、医師と調整員の2人の派遣を決定。AMDA沖縄の渡久地医師は、ペルーで育ち、今回もペルーの内科医として、またスペイン語を話せる者として、ふるさとのために少しでも手伝うことがあれば手を差し伸べたいという気持ちで参加を希望した。

二次災害の懸念から被災地への立ち入りは制限されていたが、4月2日にようやく渡久地医師と松永調整員の2人が現地入りし4月11日まで滞在。AMDAペルー支部と現地協力団体Socios En Saludとともに、6カ所で医療支援活動を実施、合計512人の被災者を診察した。なかでもピウラでは洪水で道が寸断され、途中バスを降り、ボートと徒歩で避難所まで向かい支援に入った。

■スリランカごみ処分場堆積物崩落事故災害支援

◇**実施場所**　スリランカ・ミートタムッラ
◇**実施期間**　2017年4月16日～22日
◇**事業チーム構成**
AMDAスリランカ支部、St. John Ambulanceコロンボ事務所、コロンボ東病院
◇**受益者数**　640人

◇**事業内容**
スリランカの正月に当たる2017年4月14日、首都コロンボ近郊のミートタムッラで、ごみ処分場の堆積物が崩落し、周辺住民1,800人に被害が及んだ。
同国災害管理センターによると、30人が死亡、8人が行方不明となり、11人が負傷。228世帯の980人が住む場所を追われ、安全な場所に避難。同センターをはじめ陸軍、海軍、空軍、警察が支援した。
AMDAスリランカ支部は、現地協力団体と合同で救援チームを派遣。診察活動のほか、医薬品や食料などを寄付した。コロンボ東病院から派遣された医師や看護師も被災者の救援に当たった。この活動で救援チームは640人もの患者を診察、うち42人については病院へ搬送するなどの対応を行った。

■釜石森林火災避難者緊急支援活動

◇**実施場所**　岩手県釜石市
◇**実施期間**　2017年5月9日～11日
◇**派遣者**　元持幸子／調整員・理学療法士／NPO法人つどい事務局長、橋本千明／看護師／AMDA本部職員
◇**受益者数**　12人
◇**受益者の声**
「東日本大震災の経験があり、避難生活は何度もしている。避難して3日目で、誰かと一緒に体を動かす機会が欲しかった。」
◇**事業内容**
東日本大震災から6年2カ月が経った岩手県釜石市。5月8日に大規模な山林火災が発生し、AMDA本部は看

護師を派遣。5月9日から3日間、避難所で不便な生活を強いられている住民らを温かく励ました。
現地で看護師とともに活動した元持調整員は、東日本大震災時にAMDAで4年ほど活動。その後、古里の大槌町で「NPO法人つどい」を設立し、地域のコミュニティー再生を目指している。
2人が訪れた避難所の一つである旧釜石商高体育館では、同じ体勢で長時間過ごす人が多いことから体操の時間をもつことを提案、高齢者と子ども計12人と一緒に体操を行った。
避難者の中には大震災で自宅を失い、昨年5月に再建したばかりの人もいた。山林火災による延焼を心配する人々に火災情報を細かく伝え、不安を取り除くよう努めた。

■スリランカ南西部洪水緊急医療支援活動

◇**実施場所**　スリランカ・ラトナプラ県カラデナ村、パラドーラ村、カルタラ県パラデュワ村、クラゴダ村
◇**実施期間**　2017年6月6日～12日
◇**派遣者**　ニッティヤン・ヴィーラヴァーグ／調整員／AMDAインターナショナル事務局長、菅原久美子／看護師／AMDA ERネットワーク登録メンバー
◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成**
AMDAスリランカ支部、St. John Ambulanceコロンボ事務所、Gamini Costa Foundation財団
◇**受益者数**
支援物資配布　610人（学用品など）、100世帯（蚊帳）、診察活動　115人
◇**受益者の声**
「住民から握手をしながら『遠くからありがとう』の言葉を頂いた。」
◇**事業内容**
2017年5月末、スリランカを襲ったモンスーンによる大雨で、同国の南西部では洪水や地滑りによる被害が発生。スリランカ災害管理センターによると、6月8日現在で死者212人、行方不明78人、負傷者150人。2万棟以上が損壊し、約60万人の生活に支障が出る大惨

事となった。

AMDAスリランカ支部は、現地協力団体であるSt. John Ambulanceなどと協力し、洪水が起きた翌日の5月26日から活動を開始。AMDA本部も調整員と看護師各1人を6日に派遣した。そのうち、派遣された菅原看護師は、自分の限られた能力の中でも出来る限りのことをして、少しでも被災者の助けになる活動をしたい、と今回の活動に参加した。

8日より3日間に渡り、合同チームは最も被害の大きかったラトナプラ県カルタラ県で診療をはじめ、通学用カバンや蚊帳を配布、医薬品の補充も行った。ある村では、洪水の際、村全体が浸水した。山に逃げた住民たちは水が引いた後、自宅に戻ってきたものの、自宅にあったものは水に浸かり使用できない状態になっていた。市街地から離れている村だったこともあり、支援に入ったのはAMDAが初めてで、診療を受けた住民からは握手をしながら感謝の言葉をいただいた。

■九州豪雨緊急支援活動

◇**実施場所**　福岡県朝倉市
◇**実施期間**　2017年7月6日～9日
◇**派遣者**　三宅孝士／理学療法士・調整員／赤磐市職員（AMDAに出向中）、松永健太郎／調整員／AMDA本部職員
◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成**
AMDA・総社市・野口健（登山家、総社市環境観光大使）合同支援チーム
◇**受益者数**　なし（直接的な医療ニーズはなし）
◇**事業内容**

7月5日から福岡、大分県を襲った記録的な豪雨で、10日現在の被害は死者25人、行方不明や安否が分からない人が20人超で、1,885人が避難中。

支援チームは二手に分かれ、被害が最も大きかった地区の避難所を巡って聞き取り調査を実施。暑さ対策として扇風機を設置し、段ボールベッドを設けた。避難者の70代男性は「自宅が床上浸水し、立ったまま夜を過ごした」と疲れ切った様子。

AMDAチームは、避難所での健康相談等のニーズ調査も実施した。結果、被災地の医療機関は機能しており、保健師も各避難所に2人ずつ派遣が決定されていることから、直接的な医療ニーズはないと判断。今後の現地の状況を注視していくことにした。

■フィリピン・レイテ島地震医療支援活動

◇**実施場所**　フィリピン・レイテ島カナンガ町
◇**実施期間**　2017年7月26日～28日
◇**派遣者**　大山マージョリー／調整員／岡山倉敷フィリピーノサークル代表、岩本智子／看護師（米国資格）・調整員／AMDA本部職員
◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成**
レイテ医師会、ロマルデス医療大学
◇**受益者**　233人
◇**受益者の声**
「テント生活で疲れがたまっていた。無料での診察に感謝している。」
◇**事業内容**

2017年7月6日午後4時ごろ（現地時間）、フィリピン・レイテ島西部を震源とするマグニチュード6.5の地震が

発生。レイテ島カナンガ町ヒロクトガン地区で59世帯197人が避難テント生活を続けており、医療ニーズがあるとの情報を受け、AMDAは7月28日に現地入り。レイテ医師会と合同で医療支援活動を行うことを決定した。

合同医療チームは、ロマルデス医療大学とともに233人（成人129人、小人104人）を診察。頭痛や皮膚のかゆみ、腰痛などの訴えに対し医薬品を提供した。同島では、家を失うなどの直接的な地震被害はなかったものの、地震の影響を受けた120世帯に対しては食糧物資を配布した。2013年の台風30号で家が壊れ、さらに今回の地震による地すべりで家を失った人からは「食糧支援は週3回くらい教会による食糧支援がある。ここに避難している家庭は日雇い労働か農業に従事している。6世帯18人が一つのテント生活による疲れが溜まっている中、無料で医師の診察を受けられたことに感謝している」という喜びの声をいただいた。

■フィリピン・ミンダナオ島難民支援活動

◇**実施場所**　フィリピン・ミンダナオ島イリガン市マヤ・クリスティーナ地区、アマイパクパク医療センターサテライトオフィス

◇**実施期間**　2017年7月29日～8月3日

◇**派遣者**　大山マージョリー／調整員／岡山倉敷フィリピーノサークル代表、岩本智子／看護師（米国資格）・調整員／AMDA本部職員

◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成**

フィリピン保健省、アマイパクパク医療センター

◇**受益者**　500人

◇**受益者の声**

「こうして私たちに会いに来てくれるだけでありがたい。その上、避難所に住む子どもたちに『お絵かきセット』をご支援いただき、ありがとう。子どもたちも興奮するほど喜んでいる。」

◇**事業内容**

2017年5月23日にフィリピン・ミンダナオ島マラウィ市で起きたフィリピン政府とＩＳ（自称イスラム国）に忠誠を誓うマウテグループとの武力衝突により、フィリピン政府はミンダナオ全土において厳戒令を発令。フィリピン社会開発省によると359,680人の難民が発生した。（8月30日時点）

AMDAは武力衝突が始まった当初から現地協力者と連絡を取り合いながら状況を見守っていた中、7月末に難民支援の可能性について話し合うためフィリピンに調整員2人を派遣した。現地によると、マラウィ市の一部の建物は破壊され、避難所生活を送っている全体の約2割の人たちは、長引く避難所生活により心身共に疲弊し、生活環境も厳しい状況であると聞き、支援を決定。8月2日にミンダナオ島に入り、イリガン市にあるアマイパクパク医療センター（APMC）のサテライトオフィスにる医薬品を渡した。さらに221世帯1,802人が避難するイリガン市マヤ・クリスティーナ地区（Barangay Maya Christina）の避難所を訪問、避難所の子どもたち91人に「お絵かきセット」を配布した。また、他の避難所の子どもたちに配布する409セットを、保健省地方オフィス担当者に手渡した。

■ネパール南部洪水緊急医療支援活動

◇**実施場所**　ネパール・ジャパ郡、スンサリ郡、ナワルパラシ郡

◇**実施期間**　2017年8月18日～23日

◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成**

AMDAネパール支部、AMDAダマック病院、AMDAメチ病院、AMDAシッダールタ母と子の病院

◇**受益者数**　3,187人

◇**受益者の声**

「都市部から距離が離れているにも関わらず駆けつけてくれたAMDAネパールの医療チームに感謝している。被災後初めて駆けつけてくれた医療チームだ。」

◇**事業内容**

8月11日より降り続いた大雨により、ネパール南部地

域（タライ平野）で発生した洪水、地滑りは多くの人的・物的被害をもたらした。8月20日時点で、死者143人、行方不明者30人、負傷者43人、44,683世帯が避難生活を送っている。

AMDAネパールは政府の指示のもと、被災自治体や地方保健所と連絡。AMDAダマック病院とAMDAメチ病院は10～15人の合同医療チームを結成し、19～23日、避難所や村の診療所の計5カ所で巡回診療をした。

また、首都カトマンズから南西へ車で約6時間かかるナワルパラシ郡も被害を受け、18日から5日間にわたり、AMDAシッダールタ母と子の病院から医療チームを派遣し、巡回診療を行った。

■バングラデシュ北部洪水緊急医療支援活動

◇実施場所

バングラデシュ・クリグラム地区、ガイバンダ地区

◇実施期間　2017年8月22日～26日

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成

AMDAバングラデシュ支部、日本バングラデシュ友好病院、Society for Anti Addiction Movement（SAAM）

◇受益者　18,000人

◇事業内容

8月半ばからの大雨により北部で洪水が発生、21日時点で死者114人、約700万人が被災した。

AMDAバングラデシュ支部は、日本バングラデシュ友好病院と現地団体Society for Anti Addiction Movement（SAAM）との合同で、8月22日から26日まで、被害が大きいクリグラム地区、ガイバンダ地区に医療チーム（医師、調整員等15人）を派遣し、緊急支援活動を実施。

食糧や水、生活用品などの支援物資の配布や医師2人による診療を、2地区で3,480世帯、約1万8千人に行った。

■インド・ビハール州北部洪水支援活動

◇実施場所　インド・ビハール州・サマスティプール市

◇実施期間　2017年8月27日～9月1日

◇派遣者　岩本智子／看護師（米国資格）・調整員／AMDA本部職員、ニッティヤン・ヴィーラヴァーグ／調整員／AMDAインターナショナル事務局長

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成

AMDA、ガヤ大学、元AMDAピースクリニック現地職員

◇受益者数　300世帯

◇受益者の声

「AMDAとガヤ大学はこの村に民間で初めて入った団体で、いただいた支援物資は大変助かる。家族が多いので支援物資の食料はいただいた量では少ないが、経済的な不安がある中での支援は本当にありがたい。」

◇事業内容

2017年夏、南アジアでモンスーンによる洪水が発生し、インド・ビハール州でも甚大な被害が発生した。同州危機管理部の発表によると、9月3日時点で死者514人、避難者は今季モンスーン時期に入り累計85万4千人にのぼった。

AMDAは従来より同州南部ブッダガヤにある「AMDAピースクリニック」にて妊産婦健診等を実施しており、職員2人が8月27、28日に各々現地入り。出発前の8月中旬より水害被害の情報を収集し、現地到着直後協力者との協議を進め、ガヤ大学及び現地協力者との支援活動の実施を決定した。

9月1日にビハール州北部サマースティプール市ガンガバンド地区の3つの村に住む計300世帯を対象に、食料品と日用品のセットを配布した。

■メキシコ沖地震緊急支援活動

◇**実施場所**　メキシコ・オアハカ州フチタン
◇**実施期間**　2017年9月11日～18日
◇**派遣者**　鈴記好博／医師／徳島大学大学院総合診療医学分野・AMDA ER ネットワーク登録メンバー、山﨑希／看護師・調整員／AMDA職員
◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成**
AMDA、天理教メキシコ出張所、現地コーディネーター
◇**受益者数**　80人

◇**事業内容**

日本時間9月8日午後2時前、メキシコ南部チアパス州沖を震源とするマグニチュード8.2の地震が発生。翌日AMDAは医師と看護師の2人の派遣を決定した。日本時間12日に派遣チームはメキシコ入り、現地協力団体である天理教メキシコ出張所と現地コーディネーターの協力を得て、14日には最も被害の大きかった地域の一つであるオアハカ州フチタンに入った。

現地では市庁舎や学校、病院、市場など市民の生活の要となる建物が一部損壊や半壊の被害を受け、街の中心部では建物の倒壊も見られた。また、余震が続く恐怖から、昼夜を問わず屋外や路上で過ごす人もおり、治安の悪化も相まって夜間は特に緊張状態が続いた。

AMDA医療チームは現地青年会の食糧支援に同行し、経済的に苦しい状況で暮らす家族の多い地域5カ所で2日間に渡り無料巡回診療を実施、80人を診察した。緊急を要する重症患者はいなかったが、「地震の後から食欲がなくなった」「特に体調は悪くはないが、地震が怖いので受診した」などのストレスと考えられるケースもあった。

巡回診療のほか、現地協力者が実施している食料支援を援助するために地元にて食料を調達し、協力者に提供した。

この地震によるメキシコ全土での死者数は15日時点98人、被災者数は80万人以上にのぼった。

■メキシコ中部地震緊急支援活動

◇**実施場所**　メキシコ・オアハカ州フチタン
◇**実施期間**　2017年9月22日～29日
◇**派遣者**　山﨑希／看護師・調整員／AMDA職員
◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成**
AMDA、天理教メキシコ出張所
◇**受益者数**　50世帯
◇**受益者の声**

「物資支援が入ったのは初めてでうれしい。首都のメキシコシティに支援が集中し、遠い地方のフチタンまで支援がくることは期待していなかった。私たちを忘れないでいてくれてありがとう。」

◇**事業内容**

日本時間9月20日午前3時ごろ、メキシコ中部を震源とするマグニチュード7.1の地震が発生、死者数が355人を記録した（29日時点）。看護師1人はメキシコ沖地震緊急支援活動に続き、22日メキシコに向かった。メキシコ到着後、再び天理教メキシコ出張所にご協力をいただき、翌日以降、被害の大きい首都のメキシコシティやモレロス州に向かいニーズ調査を行ったが、既に食料品や生活物資も充足し、診療活動も実施されていた。

一方、今月中旬にメキシコ沖地震緊急支援活動を実施した同国南東部オアハカ州フチタンは首都から1,000キロ離れた貧困地域であり、23日朝に同州を震源とするマグニチュード6.1の地震によりフチタンへの主要な橋が崩落、物流停止し物資の不足が懸念されることからチームは25日フチタンへ移動し、生活物資を50世帯に手渡した。また、避難所を訪ね、AMDA看護師は血圧測定や血糖測定、生活指導を実施した。

■フィリピン台風 26 号緊急支援活動

◇**実施場所**　フィリピン・ビリラン島
◇**実施期間**　2017 年 12 月 19 日～ 24 日
◇**派遣者**　山﨑希／看護師・調整員／ AMDA 職員、三宅孝士／理学療法士・調整員／赤磐市役所（AMDA に出向中）、大山マージョリー／調整員／岡山倉敷フィリピーノサークル代表
◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成**
AMDA、フィリピン大統領府、フィリピン海軍予備役、ナバル州立大学
◇**受益者**　691 世帯

◇**事業内容**
クリスマス前の 12 月 16 日午後（現地時間）に台風 26 号がフィリピン中部サマール島に上陸した。土砂崩れや洪水被害などが発生し、フィリピン政府によると、死者数は 47 人、負傷者数 78 人、行方不明者数 44 人、約 186 万人が被災した（12 月 30 日時点）。また、約 42 万人が一時期避難生活を余儀なくされた。

AMDA は現地協力者の要請により 19 日に看護師 1 人、続いて 22 日に調整員 2 人を現地に向け派遣した。現地にてフィリピン中部ビリラン島が特に甚大な被害を受けているとの情報をうけ、フィリピン海軍予備役司令部の協力により予備役のスタッフと配布する食料物資を準備。23 日、24 日とビリラン島の 691 世帯に配布した。橋が崩壊していたり、自宅が全半壊する被害を受けた人もいる中、支援物資を受け取った人たちからは「メリークリスマス！支援物資をありがとう！」と感謝の言葉をいただいた。

■フィリピン台風２７号緊急支援活動

◇**実施場所**　フィリピン・ミンダナオ島
◇**実施期間**　2017 年 12 月 25 日～ 30 日
◇**派遣者**　山﨑希／看護師・調整員／ AMDA 職員、三宅孝士／理学療法士・調整員／赤磐市役所から（AMDA に出向中）、大山マージョリー／調整員／岡山倉敷フィリピーノサークル代表
◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成**
AMDA、フィリピン大統領府、フィリピン陸軍、フィリピン国家災害対策本部、カガヤンデオロ社会福祉開発省、地元組織 KP- CDO（Kilusang Pagbabago）
◇**受益者**　820 世帯

◇**事業内容**
台風 26 号に続き、12 月 22 日に台風 27 号がフィリピン南部ミンダナオ島に上陸し、大雨の影響でカガヤンデオロ川が氾濫、下流にある都市カガヤンデオロが甚大な被害を受けた。25 日時点で 37,424 世帯 182,377 人が避難していた。

AMDA は台風 26 号緊急支援活動のため、既に同国ビリラン島に入っていた 3 人をカガヤンデオロに派遣することを決定。２５日に大統領府官房長官上級秘書であり海軍予備役であるメルカド氏と協議のうえ、27 日カガヤンデオロ入りした AMDA チームはフィリピン陸軍と合流、翌日あまり支援が入っていない市内 10 カ所の避難所に避難する家族に食料物資を配布した。

＊備考：2017 年 11 月 27 日、フィリピンのマラカニアン宮殿にてフィリピン大統領府と AMDA は、フィリピン、日本、または他国における災害時の支援等を始めとする協力協定を締結。今回のフィリピンにおける台風 26 号、27 号緊急支援活動もこの協力協定のもと実施した。

■福井雪害緊急支援活動

◇**実施場所**　福井県勝山市
◇**実施期間**　2018年2月8日～9日
◇**派遣者**　大西彰／調整員／AMDA本部職員
◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成**
AMDA、総社市職員
◇**受益者**　0人（医療ニーズなし）

◇**事業内容**

北陸地方は振り続いた大雪の影響で、2月7日時点で140センチを超える積雪を観測、昭和56年以来の雪害に見舞われた。大雪のため流通が停止し、福井県勝山市では除雪車用の軽油不足が懸念される状況に、同市長は総社市長に軽油供給支援を要請。それを受け、翌日、総社市職員と一緒にAMDAは調整員一人を派遣した。

当日朝、軽油を積んだタンクローリー1台と乗用車1台が総社市を出発。通常であれば5時間強でたどり着くが、この日は約8時間で勝山市役所に到着し、市長を訪問した。市長より、「この大雪で、雪かきを終えても次の日には同じぐらい積もってしまう。除雪車を10台所有しているが除雪が間に合わないことと、市内のガソリンスタンドでも軽油・灯油がなくなりつつあったため、昨夜の除雪は中止し今回の軽油が到着するのを待っていた」との説明を受けた。その後、除雪車20台相応の軽油をガソリンスタンドに提供した。

尚、AMDA職員は同市でけが人が出ていないこと、医療ニーズはないことを確認した。

■フィリピン・マヨン山噴火被災者医療支援活動

◇**実施場所**　フィリピン・アルバイ州
◇**実施期間**　2018年2月8日～12日
◇**派遣者**　西アニー／調整員／岡山倉敷フィリピーノサークル副代表
◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成**
AMDA、AMDAフィリピン支部、ビコール大学、アルバイ州医師会、フィリピン国家災害対策本部管轄の保健所、AMSA（アジア医学生協議会）、AMSA Alumni（アジア医学生連絡協議会卒業生部会）
◇**受益者**　266世帯1,071人
◇**受益者の声**
「AMDAの医療チームが来て活動してくれて嬉しい」
◇**事業内容**

フィリピン・ルソン島南部アルバイ州にあるマヨン山が1月13日以降、活発な火山活動を繰り広げており、8万8,490人が被災、53カ所の避難所に1万5095世帯、5万6,555人が生活している（フィリピン国家災害対策本部発表）。

AMDAは2月8日、現地に調整員を派遣した。9日未明AMDAフィリピン支部と合流後、翌日活動地となる避難所となった高校に入った。今回の活動には、AMDA及びAMDAフィリピン支部のほか、AMSAやAMSA Alumni、地元にあるビコール大学医学生、現地ボランティア等、計100人近くが参加。医師、看護師、薬剤師などで構成される医療チームが避難所にいる266世帯1,071人を対象に巡回診療を実施、長引く避難生活で病気にかからないための予防教育も行った。さらに、避難所では清潔な水を得ることが困難である等の状況をふまえ、食糧と、バケツや石鹸等の物資配布もあわせて実施した。

災害支援事業

復興支援

■東日本大震災復興支援活動

◇**実施場所**
岩手県上閉伊郡大槌町、福島県双葉郡浪江町
◇**実施期間**　2011年3月12日～継続中
◇**派遣者**　AMDA本部職員含む延べ23人（2017年度）
◇**受益者数**　1,835人（2017年度）
◇**現地協力団体**　AMDA大槌健康サポートセンター、一般社団法人Tsubomi、なみえ復興祭実行委員会、第15回復興グルメF-1大会実行委員会、復興グルメF-1運営委員会、NPO法人つどい
◇**事業内容**
2011年3月11日にマグニチュード9.0の大地震が発生し、津波による甚大な被害をもたらした東日本大震災から7年が経過した。AMDAは緊急医療支援活動として2011年4月末までに延べ149人を派遣。その後も途切れることなく復興支援事業を継続して実施、被災者の方々と手を取り合って復興へ向けた着実な歩みを進めている。

◆医療・健康支援
岩手県大槌町で2011年12月からAMDA大槌健康サポートセンターを開所以来、心身共に健康を目指した中高年のための体操教室や地元の食材を使う郷土料理の教室を続けている。近年では、ひょうたんランプの木工教室、スカーフや小物を作るさをり織り教室、竹かごに布を張る一閑張り教室などの手芸教室を開催し、地域の人の心のよりどころとなり教室での対話が住民同士の支えとなるコミュニティの場になっている。
また、2017年3月設立された一般社団法人Tsubomiは、AMDAの委託事業として若い世代に向けた母と子のための教室事業を展開しており、人口減少による少なくなった親子同士の交流の場としている。

◆生活・自立支援
東日本大震災の被災地・福島県浪江町の町役場敷地内で10月7日、地域活性化イベント「復興グルメF-1大会」と「なみえ復興祭」が同時開催され、多くの住民でにぎわった。「復興グルメF-1大会」は、被災地の商店街から出品された自慢の逸品を来場者が味わい、投票でNo.1を決める催し。15回目の開催で、同大会実行委員会が主催、AMDAが協賛した。「なみえ復興祭」は、東京電力福島第1原発事故で、全域が帰還困難区域となっていた浪江町が2017年3月31日、一部で避難指示が解除されたのを受けて企画。震災後、同町では初の復興祭となった。

当日はグルメを販売する11のブースが並び、雨天にもかかわらず午前10時の開会前には100人を超す行列ができる盛況ぶり。約1時間後には「売り切れ」の張り紙が相次いだ。当日900人以上が来場した。
AMDAはイベントを支援するため、ボランティアバスを運行、前夜に岡山を出発した。参加者22人は10月7日、各ブースに入って来場者にグルメの購入を呼び掛けた。翌8日は浪江町を巡るスタディーツアーを実施、その後帰路についた。

◆教育支援
東日本国際奨学金事業開始から7年間、医療従事者を目指す学生を対象に返済義務のない奨学金を1人年間18万円支給し、奨学生の進路を広げるチャンスとなった。

岩手県立大槌高校2人への支給を最後に、この奨学金制度は今年度をもち終了するが、今までに延べ315人、総額5,670万円の奨学金を支給した。奨学金受給者の半数以上が、既に社会に出て医療者として活躍している。

また、岡山県立大学の学生と岡山県内の学生ボランティア受け入れとして、岩手県大槌町内のコミュニティプレイスの清掃作業や町民との交流会の調整をし、学生にとってボランティア体験を通じて地元の方との交流と東日本の復興の様子を知る貴重な機会となった。

■ネパール地震復興支援活動 「障がい者支援プロジェクト」

◇**実施場所** ネパール・カトマンズ郡、ラリトプール郡、バクタプール郡、ドラカ郡
◇**実施期間** 2015年6月～継続中
◇**派遣者** 西嶋望／理学療法士／AMDA委託（ネパール在住）
◇**受益者** 93人（2017年度）
◇**現地協力団体**
Center of Independent Living Kathmandu（CIL Kathmandu）
◇**受益者の声**
「AMDAの障がい者支援の事業のおかげで生活活動の範囲が広がった。ありがとう。」

◇**事業内容**
2015年4月25日にネパール中部を震源とするマグニチュード7.8の大地震が発生。さらに、5月12日にはマグニチュード7.3の余震が発生し、被害が拡大した。AMDAは発生直後から開始した緊急医療支援活動に引き続き、5月26日から復興支援活動を実施している。

2017年4月から2018年3月まで第三期としてネパール地震復興障がい者支援事業を継続。ネパール国内で調達した車いす5台に加え、日本で使われなくなったものを整備し送られてきた14台を、カトマンズ郡及びほかの被災地に住む障がい者に贈呈。また、自立生活に向けたアドバイス、ピアカウンセリング、モバイルキャンプなども実施した。更に、防水シーツ、カテーテル、ポータブルトイレ、消毒液、カテーテル用ジェル、薬品等福祉用具・衛生管理用品の支援も行った。

障がい者の真の自立のためには障がい者本人、家族だけではなく、近隣住民の障がいへの正しい理解と協力が不可欠である。そのため、今期では「IDOBATA GAFU Program」という、家の外で近隣住民と井戸端会議のように障がいについて気楽に語り合える場を意識的に作り出し、専門家がその場で話をすることで正しい理解と協力の促進に努めた。

■熊本地震復興支援：益城町役場職員への鍼灸治療

◇**実施場所** 熊本県益城町
◇**実施期間** 2017年7月20日～継続中
◇**派遣者** AMDA災害鍼灸熊本チーム5人
◇**受益者** 293人（2017年度）
◇**受益者の声**
「肩がすっきりし、気分がゆったりした。体調もすこぶる良くなった。」（受診者）
「復旧から復興に代わる過渡期なので、なるべく長く継続してほしい。」（益城町役場担当者）

◇**事業内容**
熊本地震から2年余り。震度7の地震を2度も観測した熊本県益城町で、AMDAは熊本鍼灸チームを中心に益城町役場と協力し、役場職員の治療を実施している。被災者でありながら復興事業に携わることで時間の経過とともに心身は限界に追い込まれつつあることから、災害鍼灸事業の一環として支える人を支えることを目的として2017年7月20日から開始。

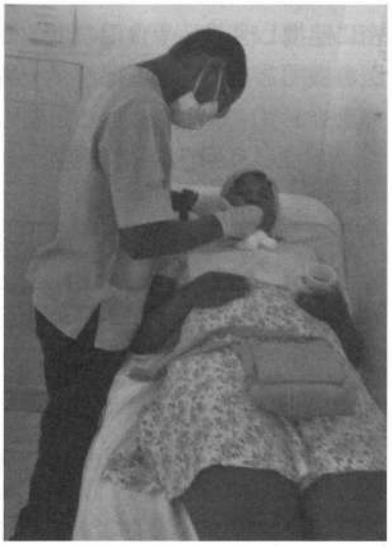
治療は非常勤を含めた役場職員を対象にAMDA災害鍼灸熊本チーム5人が対応。毎月第2、第3木曜日の午後に実施している。1日あたりの施術人数は15人。
災害鍼灸チームは、産業医、保健師、医療関係者による益城町安全衛生委員会とも協力し、鍼灸治療の結果を共有して包括的な健康支援を目指している。

■ AMDA ハイチ地震復興支援「無料歯科検診プロジェクト」

◇**実施場所**　ハイチ・フォン＝デ＝ネグル
◇**実施日**　2018 年 2 月 3 日
◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成**
AMDA ハイチ支部
◇**受益者**　42 人
◇**受益者の声**
「素晴らしいプロジェクト。今後も継続してほしい。」
◇**事業内容**

2010 年 1 月のハイチ大地震以降、復興支援として毎年恒例となった AMDA ハイチ支部による無料歯科検診プロジェクトも 8 回目の実施となった。今年も昨年同様、フォン＝デ＝ネグルにある救世軍運営の病院にて実施した。当日は地元フォン＝デ＝ネグルをはじめ、地方からの患者も多く足を運んだ。歯科医であるケビン・マック・フレデリック AMDA ハイチ支部長を始めとしたプロジェクトチームは、口腔のチェック、洗浄、歯の修復や抜歯などの処置を施した。また患者達に歯の重要性について説明、歯の健康を保つ上でのポイントを教示したところ、患者達も大変満足した様子だった。

診察の際、AMDA と AMDA ハイチ支部に関する紹介が行われた。2010 年から現在まで、AMDA ハイチ支部が歯科プロジェクト、コレラ対策、義肢支援、スポーツ交流などのプロジェクトを行ってきたことに触れ、2010 年 12 月のコレラ対策緊急救援、2016 年 10 月のハリケーン被害に対する緊急救援についても強調した。



終了後、患者から今後も同プロジェクトの継続を望む声があった。「これが都市部のみならず、地方でも毎年行われればこの上ない」との感想も聞かれた。事実、地方では、歯の衛生に関する知識が十分でなく、歯科検診に関する基本的な知識が欠如している。今回地方より参加した人たちは、口腔の衛生に関する意識を改め、より頻繁に歯科検診に通いたいと話した。また、地元フォン＝デ＝ネグル在住の女性は、今回でこの検診を受けるのは四回目であり、「毎回満足している」とのことだった。

AMDA ハイチ支部のケビン・マック・フレデリック支部長は、「このような喜びの声を聞くことができたのは嬉しい限り」と述べ、定着しつつあるこのプロジェクトに確かな手ごたえを感じている様子だった。

防災プラットホーム

AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム

■ AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム概要

◇**実施場所**　岡山県、香川県、徳島県、高知県
◇**実施期間**　通年実施
◇**事業内容**

AMDA では、近い将来の発生が予想される南海トラフ巨大地震に備えて、発生時に迅速な支援活動を行うため事前の対応準備を進めている。南海トラフ巨大地震が発生した場合には、孤立しやすい四国の徳島県・高知県 10 か所の避難所に支援へ入る事をすでに決定している。連携協定を結んでいる自治体や医療機関、経済団体と緊

【訪問先】

日程	訪問先
4/10	佐世保海上自衛隊訪問
4/25	笠岡渡船訪問
4/26	くろしお病院、天理教高知大教会、内田脳神経外科訪問
4/28	丸亀市危機管理課訪問
5/15	ムネ製薬連携協定
5/17	サンテペアーレ訪問
5/24	岡村一心堂病院訪問
7/6	備前市訪問
7/12	美波病院、内田脳神経外科訪問
7/14	渭南病院訪問
7/26	海南病院訪問
9/5	落合ガソリン（道満石油店）訪問
9/26	明石リハビリテーション訪問
9/27	岡山セコム訪問
2/16	アイ薬局移動調剤車お披露目　同席
3/9	十字屋グループ　訪問
3/28	高知県協議会

密に連携し医薬品や食糧の事前備蓄、支援に駆けつける医療機関と支援に入る徳島県・高知県の自治体との事前マッチング、事前交流などを進め、円滑に支援活動を行うため準備している。

2017年度では、他団体主催の訓練にも参加、互いの活動を通じ学ぶことも多かった。

【訓練】

日程	訓練名	活動内容
6/24	南海レスキュー29参加	・南海トラフ地震を想定した陸上自衛隊演習訓練「南海レスキュー」の医療訓練の一部である人員空輸訓練に参加。 ・ホウエツ病院へリポート発着→高知県須崎市へリポート着陸→高知県黒潮町拳ノ川小学校校庭へリ着陸。
9/3	岡山市、備前市防災訓練参加	・岡山県岡山市東区西大寺の緑花公園にて岡山県の総合防災訓練（パネル展示）。 ・岡山県備前市の防災訓練が備前市総合運動公園で開催（パネル展示と講演）。
11/4	美波町自主防災訓練参加	・日和佐中学校の体育館で自主防災組織の避難所設営訓練（パネル展示）。
11/18	AMDAシミュレーション実施	・輸送と通信のシミュレーション、総社市を起点に徳島県にバスで移動し美馬市でレンタカーに乗換えて各避難所の自治体まで移動。 ・高知県へは総社市からタクシーとレンタカーで各避難所の自治体まで瀬戸大橋としまなみ海道の2ルートに分かれて移動。 総社市→美馬市/阿波市→阿南市、美波町、牟岐町、海陽町 総社市→高知市、須崎市、黒潮町
12/16	徳島県南部訓練参加	・徳島県那賀町で実施された徳島県南部圏域防災訓練に参加（パネル展示）。
1/20	四国DMAT訓練参加	・参加医療機関：倉敷成人病センター、赤穂中央病院、はくほう会セントラル病院、倉敷平成病院

【事前交流】

日程	訪問先	活動内容
11/2	高知市	・岡山東部脳神経外科より高知市と内田グループ 岡山東部脳神経外科病院（3人）、AMDA（5人）
12/22	美波町	・倉敷中央病院より赤松防災拠点施設、美波町役場、美波病院等訪問倉敷中央病院（3人）、AMDA（3人）

■第4回災害鍼灸チーム育成プログラム

◇**実施場所**　岡山国際交流センター
◇**開催日**　2017年7月22日、23日
◇**主な参加者・団体**　教育関係者、鍼灸師など
◇**参加者数**　28人
◇**事業内容**

災害鍼灸チームの「第4回育成プログラム」（AMDA主催）が7月22日、23日、岡山市北区の岡山国際交流センターで開かれ、全国から参加した鍼灸師らが有事の際の円滑な鍼灸活動の意義、ノウハウなど学んだ。

初日の22日は講師を務めた3人、1団体が講演。AMDA災害鍼灸ネットワーク代表世話人で、帝京平成大学の今井賢治教授は災害時の避難所等での鍼灸活動について説明した。続けて熊本地震発生以降、実際に避難所で鍼灸活動を行っているAMDA熊本鍼灸チームの3人が活動内容を報告、「鍼灸は心の健康に尽力できる素晴らしい仕事だとあらためて感じた。患者とともに苦しみ、感情を分かち合う気持ちを大切にしたい」と語った。

AMDA大槌健康サポートセンター長である佐々木賀奈子鍼灸師は、東日本大震災で津波にのみ込まれ、奇跡的に助かったご自身の経験を語ったうえで、「生かされたからこそ、何かをしなければ、と懸命に生きてきた。患者の目線で考えることが災害鍼灸の原点と思う」とご自身の鍼灸活動について報告した。高橋徳氏（AMDA災害鍼灸ネットワーク世話人、クリニック徳院長）は、米国での

鍼灸と西洋医学の双方の視点から研究する「統合医療」の専門家について紹介、医師はより患者の自然治癒力を信じ、信頼関係の構築に努める必要があることを語った。

2日目は難波妙AMDA理事より緊急医療支援活動の中の鍼灸の役割と今後の展望について話した後、災害時における鍼灸治療について、過誤を防ぐためにはどのような点に気を付けたらいいか、参加者の方々とともに活発なディスカッションが行われた。

■第4回AMDA南海トラフ災害対応プラットフォーム調整会議

◇**実施場所**　岡山国際交流センター
◇**開催日**　2017年7月23日
◇**主な参加者・団体**　中四国の自治体職員、医療機関関係者、企業関係者など
◇**参加者**　約300人

◇**事業内容**

AMDAは7月23日、南海トラフ地震の支援体制や取り組みを探る第4回調整会議を岡山市内で開催した。連携する中四国の自治体や経済団体、医療機関などから約300人が出席。片岡聡一・総社市長は「他県からの避難者の生活を支援する新たな条例を検討したい」と意欲を示した。松田久・岡山経済同友会代表幹事は、民間業者の在庫を優先的に避難所に送る「流通備蓄」の手法を紹介。友實武則・赤磐市長は「AMDAの相互扶助の精神を学び、成熟した自治体を目指す」と述べた。

その後、熊本地震発生時の避難所運営と題し、熊本県益城町の職員が当時の避難所での様子を写真等を使用して報告、「自身が感じた危機感や経験を伝えることが恩返しだと思っている」と語った。そしてAMDA災害鍼灸チームからも東日本大震災等災害時の鍼灸の役割、そして熊本地震の際には救護室にて活動を実施したことにより、医療との連携がうまく取れたことについて説明、更に避難所での環境や被災のストレスによる肩こりの症状を鍼治療にて緩和できたことなどを報告した。

最後に、南海トラフ災害に対して準備を進めるAMDA南海トラフ災害対応プラットフォーム運営委員会委員長並びにAMDA職員による食糧備蓄や宿舎確保等の進捗状況、緊急輸送合同訓練の実施状況の説明をした。

■ AMDA被災地間交流フォーラム

◇**実施場所**　山陽老人福祉センター（岡山県赤磐市下市）
◇**開催日**　2018年2月18日
◇**主な参加者・団体**　友實武則赤磐市長、田原隆雄備前市長、片岡聡一総社市長、松田久岡山経済同友会代表幹事、東北三陸沿岸商店街10人、高知・徳島県の行政関係者3人
◇**参加者数**　80人
◇**事業内容**

東北三陸沿岸復興支援と南海トラフ地震の備えを話し合うAMDA主催の「第4回被災地間交流フォーラム」（赤磐市、赤磐市社会福祉協議会後援）が2月18日、同市下市の山陽老人福祉センターで開かれ、「災害時に岡山が果たす役割」について活発な討議が行われた。

岡山経済同友会の松田久代表幹事が「災害時の支援拠点・岡山」と題して講演。AMDAと連携協定を結んでいる赤磐、備前、総社市、和気町、丸亀市の各首長が"ひとことアピール（メッセージを含む）"を発表した。

宮城県気仙沼南町紫神社前商店街事務局長の坂本正人氏は「地域の復興の現状」について述べ、高知県黒潮町職員の友永公生氏は「事前復興の視点から考える地域振興」と題して話した。AMDA職員から南海トラフ災害対応プラットフォームの取り組みについての説明もあった。フリーディスカションでは、AMDAグループの菅波茂代表が司会を務め、出席者からは「国の補助金制度は被災地の実情に合わせて変更して欲しい」「万一の時、底力となるのが住民同士のコミュニティー」といった声が聞かれた。

GPSP 魂と医療のプログラム

■モンゴル・ガンダン寺院「平和祈願祭」

◇**実施場所**　モンゴル仏教総本山ガンダン寺院
◇**実施日**　2017 年 9 月 3 日
◇**派遣者**　菅波茂／ AMDA グループ代表、難波妙／ AMDA GPSP 支援局長、矢部賢次／ AMDA ボランティア、矢部朝子／ AMDA ボランティア
◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成**
AMDA 本部職員・ボランティア、宗教法人大本、ガンダン寺院
◇**受益者数**　41 人
◇**事業内容**
モンゴル仏教総本山ガンダン寺院で 9 月 3 日、GPSP 医療と魂のプログラム「平和祈願祭」が行われた。
モンゴルではハルハ河戦争（ノモンハン事件）で、多くの尊い命が失われている。二度と悲惨な歴史を繰り返さないよう、2008 年から毎年開催し、今年で 10 年目を迎えた。

今回はガンダン寺院、宗教法人大本の方々や AMDA ボランティアも参加し、多くの人たちのために力を尽くしていくことを参加者一同、心に誓った。
GPSP は「世界平和パートナーシップ」の略。医療と魂のプログラムは、第二次世界大戦の犠牲者には宗教者による慰霊祭を、家族には AMDA の医療サービスを提供する宗教者と AMDA の合同事業。宗教者は自費参加している。

その他

■ AMDA の集い in 関西

◇**実施場所**　毎日新聞社神戸支局セミナーホール
◇**開催日**　2017 年 7 月 1 日
◇**参加者・団体**　AMDA、AMDA 兵庫、神戸市民ら合計 42 人

◇**事業内容**
AMDA と AMDA 兵庫共催の「AMDA の集い in 関西」が 7 月 1 日、神戸市内で初めて開かれ、「南海トラフ地震と国内外の大規模災害に備えた取り組み」と題して講演や市民との意見交換を行った。
AMDA 緊急救援ネットワークに登録している押谷晴美看護師が地震被害のあった熊本県やネパール、ハリケーン被害のあったハイチでの活動を紹介。ローカルイニシアチブ（現地主導）や、自ら体験することの大切さを強調した。その後、AMDA 本部職員より南海トラフ地震への準備状況を、そして江口貴博 AMDA 兵庫理事長よりこれまでの AMDA 兵庫の取り組みを紹介した。
続く質疑応答では、参加者より「AMDA の活動をもっと PR してほしい」との要望があり、主催者側も「もっと顔と顔が見える関係を築きたい」と答えるなど活発な意見交換を行った。

■岡山県立大学大学院「災害医療援助特論」公開講座

◇**実施場所**　岡山国際交流センター
◇**開催日**　2017 年 9 月 10 日
◇**主な参加者・団体**　岡山県立大学大学院生、徳島県美波町職員、AMDA 中高校生会、一般市民ら約 80 人
◇**事業内容**
岡山県立大学大学院が主催、AMDA が協力する第 14 回セミナー「災害医療援助持論」公開講座が 9 月 10 日、岡山市北区の国際交流センターで開かれた。
AMDA 職員が南海トラフ地震の想定規模や事前準備、訓練の内容などを説明。続いて、AMDA と災害連携協定を結んでいる徳島県美波町職員の浜大吾郎氏が「住民主体の事前復興まちづくり」と題して講演した。

南海トラフ地震発生時、同町人口の３割が犠牲になるというデータ（徳島県発表）に加え、就職や結婚を機に若者が同町を転出する“震災前過疎”の深刻化の事態を受け、浜氏は「大好きな郷土をどう次世代に伝えていくか」をコンセプトにした、全国でも珍しい“事前復興まちづくり”の取り組みを実施している、と話した。

AMDA 中学高校生会のメンバー４人は「日本の将来を担う若者は防災から目をそむけてはならない。災害の際は相互扶助の精神で乗り越えたい」と呼びかけた。

■第１回 AMDA・赤磐市防災国際フォーラム

◇**開催場所**　赤磐市・桜が丘いきいき交流センター
◇**開催日**　2017 年 11 月 19 日
◇**参加者・団体**　友實武則赤磐市長、赤磐市職員、AMDA 中学高校生会、一般市民
◇**参加者数**　約 60 人

◇**事業内容**

AMDA と岡山県赤磐市共催の「防災国際フォーラム」が 11 月 19 日、赤磐市内の桜が丘いきいき交流センターで開かれ、近い将来、発生が懸念される南海トラフ地震やスリランカでの平和構築プログラムなどをテーマに議論を交わした。

AMDA と赤磐市が締結している災害時の連携協力協定に基づき、初めて企画した催し。

フォーラムでは、AMDA グループの菅波茂代表と赤磐市の友實武則市長が対談。菅波代表が「災害支援には事前交流によるコミュニケーションづくりが大切になる」として大きな被災が想定される高知、徳島県などと赤磐市の住民同士が“踊り”で触れ合うイベントの開催を提案。友實市長も前向きな検討を約束した。

スリランカでのプログラムに参加した４人を含む、AMDA 中学高校生会の代表６人は、中高生会の活動の説明及びスリランカ紛争後の復興支援活動の取り組みについて紹介。スリランカの若者と交流した感想として「共通言語は英語でなく“笑顔”」「世界平和の夢に向かって挑戦したい」と述べた。

■第２回AMDAインターナショナル アジア地域支部長会議

◇**実施場所**　マレーシア・クアラルンプール
◇**開催日**　2018 年 1 月 27 日、28 日

◇**参加者・団体**　一般財団法人国際貢献医療プラットフォーム、NPO 法人ジャパン・プラットホーム、台湾衛生省より参加の台湾 IHA、特定非営利活動法人 TICO、NPO 法人 TMAT、独立行政法人国立病院機構福山医療センター、ベトナム国防省 175 軍病院、モンゴル 103 救急サービス（五十音順）松本慈寛医師（北里大学病院麻酔科学教室助教）、アーウィン・フェラー講師（マネージメント科学大学 / マレーシア）
AMSA（アジア医学生連絡協議会）、AMSA 卒業生部会、AMSA International、AMSA 日本、AMDA 海外支部長及び AMDA 関係者、菅波茂 / 医師 /AMDA グループ代表、難波妙 /AMDA GPSP 支援局長、岩本智子／ AMDA 本部職員、橋本千秋／ AMDA 本部職員、アルチャナ・シュレスタ・ジョシ／ AMDA 本部職員、山﨑希／ AMDA 職員
◇**参加者数**　14 か国より 46 人
◇**事業内容**

第２回 AMDA インターナショナル・アジア地域支部長会議が 2018 年 1 月 27 日から２日間にわたり行われ、AMDA 支部長に加え、AMDA パートナー団体からの参加もあった。同会議で新たに発表された「世界災害医療プ

ラットフォーム」構想は、アジアで頻発する災害に対し、国連／国際機関・政府／軍・NGO／NPO・大学・企業との連携を強化し、効果的な災害支援を行うための取り組みで、AMDAグループ菅波茂代表は参加者へ協力を呼びかけた。

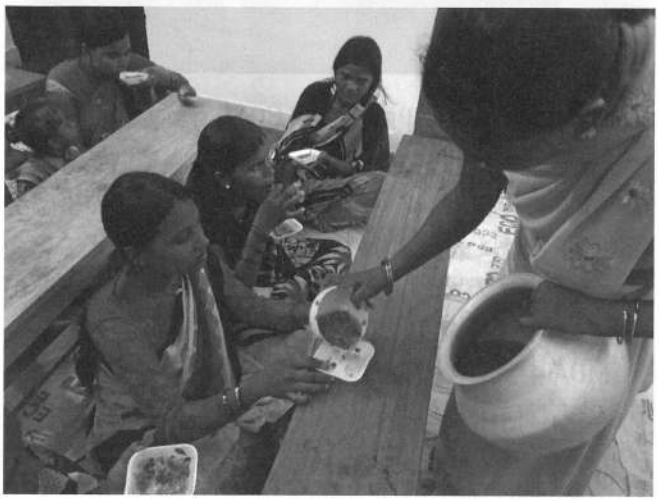
AMDAでは「開かれた相互扶助」「パートナーシップ」「ローカルイニシアチブ」のコンセプトのもと行う活動を平和構築・健康増進・教育支援・生活支援の4分野に分けている。この4分野の活動をパートナー団体と協力して行い、「開かれた相互扶助」のコンセプトを世界に広めることで多様性の共存、すなわち平和の実現に寄与する取り組みを「相互扶助ミッション」と名付けている。会議の最後には、「相互扶助ミッション」を進めていく宣言を全会一致で採択し、署名をした。

健康増進

プライマリーヘルスケア

■インド　ブッダガヤ AMDAピース・クリニック

◇**実施場所**　インド・ビハール州ブッダガヤ
◇**実施期間**　2009年11月～継続中
◇**派遣者**　菅波茂／医師／AMDAグループ代表、難波妙／調整員／AMDA GPSP支援局長、ニッティヤン・ヴィーラヴァーグ／調整員／AMDAインターナショナル事務局長、岩本智子／看護師（米国資格）・調整員／AMDA本部職員
◇**現地事業チーム構成**
看護スタッフ1人、補助員2人、訪問の産婦人科医1人、臨床検査技師1人
◇**受益者数**　343人（2017年度延べ人数）
◇**受益者の声**
「AMDAピースクリニックに妊娠中の私を支えてもらったおかげで、元気な双子を授かりました。今は私が他の妊婦さんにAMDAピースクリニックを紹介しています。」
◇**現地協力団体**　主にAMDAピースクリニックとSAIJO INARISAN BODAIISSHINJI BODHGAYAが運営
◇**事業内容**
2009年11月にインド最貧州ビハール州ブッダガヤでアユルヴェーダクリニックとして開院したAMDAピースクリニック（APC）は地域のニーズに対応するため、



2014年より地域の妊婦を対象とした母子保健サービスを提供している。ブッダガヤは仏教の聖地として知られ、世界遺産の大仏塔を中心に各国の寺院が立ち並んでいる。一方、小さな通りに入ると、溝にたまるゴミによる悪臭が立ち込める中、ヤギや鶏などの家畜が混在する小道を、小さな子どもたちが下着を付けず裸足で駆け回る様子は、よく見るブッダガヤの風景である。

APCは貧困の中でもたくましく生活する妊婦と赤ちゃんを応援するため、主に現地看護スタッフによる家庭訪問、地元医師による妊婦健診、健康教室開催の3つの活動を実施している。家庭訪問では、妊婦健診参加への呼びかけ、生活指導、妊婦の悩み相談など保健活動を中心に行っている。また、月2回の妊婦健診は地元産婦人科医と臨床検査技師にご協力いただき、受診1回につき20ルピー（約35円）の自己負担でサービスを提供している。必要な方には、通常900ルピー（約1,500円）かかる血液検査や、鉄剤、総合ビタミン剤、カルシウム、プロテインなどサプリメントを中心とした薬の提供を無料で行っている。加えて、週1回妊婦を対象に健康教室を開いている。これは、出産を控えた妊婦と出産を終えた褥婦に自身や家族の健康を守るのに必要最低限の知識をつけてもらうことを目的としている。健康教室後には、妊産婦に栄養をつけてもらうため、地元で手に入る安価な食材を使用した、家でも作れる料理を提供している。

■パキスタン家庭健康教育プログラム

◇**実施場所**　パキスタン・タッタ県サクプール地区ミルプール・サクロ

◇**実施期間**　2014年6月～2017年12月

◇**派遣者**　菅波茂／医師／AMDAグループ代表、岩本智子／看護師（米国資格）・調整員／AMDA本部職員

◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成**

AMDA、NRSP（National Rural Support Programme）、茅ヶ崎中央ロータリークラブ

◇**受益者数**　654人（2017年4月～12月）

◇**受益者の声**

「健康に関する知識が向上したのはもちろんのこと、私たちのようにプログラムを受講した未婚女性から家族に学んだ内容を伝えたり、プログラムを受講していなかった少女たちに健康に関する知識を広めている。」

◇**事業内容**

2014年6月に茅ヶ崎中央ロータリークラブ、パキスタン現地協力団体NRSP、AMDAの三者が協力してパキスタンの農村部に住む未婚女性を対象に健康教育を行うという内容で調印。その後「未婚女性が健康に関する知識を身に着けることにより、自身と家族の健康を守ること」を目的とする、衛生観念、月経時の衛生管理、健康と栄養、予防接種、ポリオ、応急処置、新生児ケア、出産準備、母乳育児、家族計画を含む健康教育プログラムを実施してきた。3年半が経過した2017年12月、ついにこのプログラムの受講者目標1,400人を達成し、当プログラムが完了した。この3年半の間に合計1,442人の未婚女性がプログラムを受講、内1,194人が授業の後に行ったテストに合格した。

12月15日にはプログラム完了に伴い、パキスタン家庭健康教育プログラム優秀賞授与式を開催。在カラチ日本国総領事館磯村利和総領事、パキスタンポリオ・プラス委員会アジス・メモン委員長をはじめ合計48人が参加し、プログラム期間内での優秀者を称えた。茅ヶ崎中央ロータリークラブ、NRSPとAMDAから当プログラムで優秀講師6人及び優秀受講者20人に対して賞状、盾、記念品を贈呈した。

また、12月にAMDAが現地を訪問した際、受講した未婚女性が「学んだ知識を実生活で実践し、得た知識を家族や兄弟にも広めている」と話していたが、未婚女性のみならず家族や村へも当プログラムの影響が広がっている様子が見られた。プログラム内で飲料可能な井戸水、不可能な井戸水について伝えた後、ある村では、飲料可能な水が出る井戸には青、飲料不可能な水が出る井戸は赤に色分けし、一目でわかるように工夫をしていた。

「この3年半、識字率0%の未婚女性たちのグループが参加するため講義に工夫が必要だった状況、講義を途中で止める講師が出たことなど、いくつか困難な場面もあったが、プログラムは無事完了した。今後、当プログラムに受講した未婚女性が母親になった時、『このプログラムで学んでよかった』という知らせが届くことを期待している」とAMDA担当者は語った。

12月で当プログラムは完了となるが、NRSPが既に別プログラムとして同カリキュラム教育によるプロジェクトを開始している。

■カンボジア健康啓発事業

◇**実施場所**　カンボジア・トボンクムン州、コンポンスプー州プノム・スロッチ地区

◇**実施期間**　2005年8月～継続中（HIV／エイズプロジェクト）、2015年7月～継続中（サッカークラブ活動）

◇**現地事業チーム構成**　AMDAカンボジア支部

◇**受益者**　約300人（HIV／エイズプロジェクト）、10人（サッカークラブ員）

◇**事業内容**

AMDAカンボジア支部は、「HIV／エイズプロジェクト」及び「サッカークラブ活動」の2つのプロジェクトを実施した。

◆ **HIV／エイズプロジェクト**

通年同様、AMDAカンボジア支部は、HIV／エイズ・性感染症の基礎知識普及のため資料及びTシャツを作成

するほか、「90.90.90」*の数値目標をキャンペーンテーマとして掲げ、世界エイズデーのイベントが開催されるトボンクムン州保健局と協力して「世界エイズデー」イベントを実施した。州保健局、地方保健局、地方自治体、ボランティア、学校の先生、学生ら約300人にもなる参加者は、HIV／エイズ啓発のため開催地を行進した後、州保健局本局にて、音楽等を楽しみ、キャンペーンテーマについて各々意見交換を行った。

*「90.90.90」とは

- 2020年までにHIVと共に生きる人の90%が病院で診断を受ける。
- 2020年までにHIV／エイズと診断された人の90%が抗レトロウイルス療法による治療を受ける。
- 2020年までに治療を受けている人の90%がウイルス量を完全に抑制される。

◆AMDAカンボジア・サッカークラブ活動

AMDAカンボジア・サッカークラブは、隔週で練習を行い、毎月他クラブとも試合を行っている。また、今年度はコンポンスプー州プノム・スロッチ地区にある、以前AMDAのプロジェクトで建設されたカンボジア日本友好小学校でサッカーチームを新たに設立した。カンボジア国内にてスポーツの向上を図り、若者にスポーツへの更なる参加を呼びかけることで、彼らが薬物依存や犯罪、暴力に走らぬよう阻止することを目的としている。

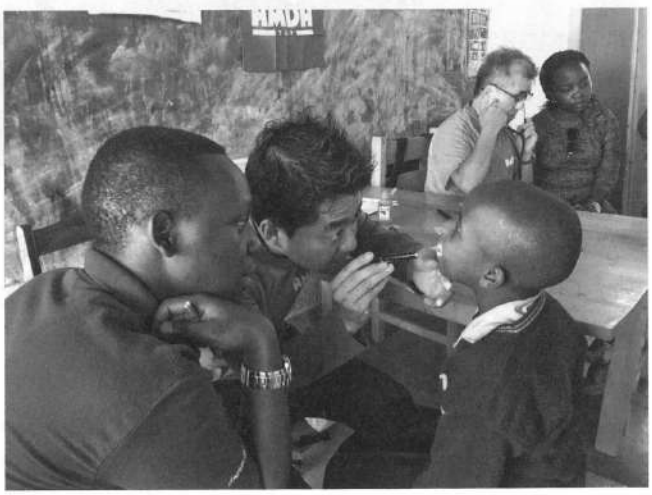
医療技術移転事業

■ルワンダ小児医療・学校保健

◇**実施場所**　ルワンダ・キガリ州及びギクンビ地区
◇**実施期間**　2017年9月2日～10日
◇**派遣者**　頼藤貴志／医師／岡山大学大学院環境生命科学研究科准教授、中村信／医師／国立病院機構岡山医療センター新生児科医長、福井花央／医師／同センター産婦人科
◇**受益者**　1,049人
◇**事業内容**

学校健診の普及を目指し9月2日から10日まで、日本の医師3人がルワンダを訪れ、首都キガリのウムチョムイーザ学園とキバガバガ小学校の2校、そしてミヨベ幼児期児童発達センターで学校健診を行った。昨年は1校のみの活動だったが、今年はルワンダ行政の依頼を受け3カ所での活動となった。

また、地域行政や学校関係者、保護者に学校健診の知識を伝えることで、疾患の早期発見の必要性の理解、早期に治療に結びつくよう理解を促した。現在長崎大学大学院留学中のカリオペ医師含む、ルワンダ人医師2人も加わり、学校健診の必要性や健診項目、健診内容を説明、1,000人以上の健診を実施した。



この活動は岡山県の2017年度国際貢献ローカルトゥローカル技術移転事業(専門家派遣)の助成を受けている。

■モンゴル・医療セミナー

◇**実施場所**　モンゴル・ウランバートル
◇**実施期間**　2017年9月7日～17日
　　2018年3月15日～26日
◇**派遣者**　佐藤拓史／医師／東亜大学医療学部教授、モンゴル国立医科大学招聘教授、難波妙／調整員／AMDA GPSP支援局長
◇**主な参加者・団体**　ウランバートルエマージェンシーサービス103、モンゴル国立医科大学内視鏡チーム、日本モンゴル友好病院、ファミリーホスピタル、AMDAモンゴル支部、AMSAモンゴル学生、AMSAモンゴル卒業生
◇**事業内容**

AMDAは協力協定を結んでいるウランバートルエマージェンシーサービス103とモンゴル国立医科大学に、救急の外傷の診断方法や初期治療、内視鏡を専門とする佐藤拓史医師を派遣、講演や研修を実施した。

◆救急医療研修

9月9日と10日の2日間、ウランバートルエマージェンシーサービス103では救急医療に関するセミナーを実施、ウランバートル市保健局所属の20医療機関から幹部ら約100人の救命医が参加した。外傷治療についての説明や胸腹部超音波診断の実技などを含めた指導に加え、救急車に現地の医療チームと共に同乗しての実地研修も実施した。

◆内視鏡研修

9月11日、12日、モンゴル国立医科大学内視鏡チー

ムに内視鏡治療や診断技術の指導を行った。2018年に開院する日本モンゴル教育病院に内視鏡センターが開設されることもあり、「佐藤先生から学ぶ技術は大変重要なので、出来れば毎月でも来てほしい」と研修の必要性と継続を熱望された。

その結果翌年3月には同大学招聘教授として佐藤医師は再度内視鏡研修を実施した。日本で行われている最新の内視鏡検査と治療についての講義など連日実施、最終回の講義で「なぜ僕らは内視鏡の技術を身に付けることを志すのかよく考えてほしい。命を救うための技術であることを心にとめておいてほしい」と語った。

◆ダンバダルジア地区・超音波検査

9月13日、日本モンゴル友好病院と周辺地域のファミリーホスピタル合同で、同病院近隣に住む3件を訪問、佐藤医師は腹部に異常のある方4人に超音波検査を実施した。AMDAモンゴル支部長も同行し、佐藤医師の確かな診断技術から多くの事を学んだと感嘆した。

◆ AMSAモンゴル学生への講演

佐藤医師は、9月8日、モンゴル国立医科大学においてAMSAモンゴルの学生たち16人に自身のこれまでの海外での医療支援活動について講演、学生たちに医療の届かない人たちが未だ多くいる中で医師としての役割を果たす大切さを訴えた。講演終了後には、実際に海外でのボランティア参加を申し出る学生もあり、学生たちの医療人としてのモチベーションを高める貴重な機会となった。

■ネパール医師研修受け入れ

（2017年度岡山県国際貢献ローカル・トゥ・ローカル技術移転事業）

◇**実施場所**　岡山済生会総合病院
◇**実施期間**　2017年8月25日～11月20日
◇**招へい者**　ブダトォキ・ビマラ／医師／ネパール・AMDAダマック病院
◇**事業内容**

ネパール・AMDAダマック病院より産婦人科医であるブダトォキ・ビマラ医師が岡山県の2017年度国際貢献ローカル・トゥ・ローカル技術移転事業の補助を受け8月末に来岡。日本語研修のあと、9月4日より11月15日まで岡山済生会総合病院にて腹腔鏡手術を中心に学んだ。

AMDAダマック病院には産科及び婦人科の患者が多く訪れ、2016年には全子宮摘出や子宮筋腫摘出、帝王切開等3,527件の手術を行っているが、主に開腹術であるため、傷口が大きく回復に時間がかかる。一方、腹腔鏡手術の場合は傷口も小さいため回復が早い。入院期間も短縮することができ、患者や患者の家族などの生活や経済的な負担も少なくなることが期待できる。さらに、AMDAダマック病院は、年々増加傾向にある患者数に対し、患者の体の負担がより少なく、入院日数が少ない腹腔鏡手術での対応と必要となってくること等から、産婦人科医として豊富な経験を持つビマラ医師が研修を受けることとなった。

9月より2か月以上岡山済生会総合病院にて、腹腔鏡手術だけでなく、開腹手術含む婦人科外科手術にアシスタントまたは執刀という形で携わった。AMDA事務所を訪問したビマラ医師は、「岡山での研修はAMDAの皆さんのおかげで実現した。感謝しています」と自筆で書いたメッセージを読み上げた後、「日本の医療技術は機器を含め素晴らしかった。ネパールで生かしたい」と抱負を述べた。

■ネパール内視鏡技術研修事業

◇**実施場所**　ネパール・ジャパ郡ダマック市
◇**実施期間**　2018年2月22日～3月5日
◇**派遣者**　佐藤拓史／医師／東亜大学医療学部教授、モンゴル国立医科大学招聘教授、難波妙／調整員／AMDA GPSP支援局長、アルチャナ・シュレスタ・ジョシ／調整員／AMDA本部職員
◇**主な参加者**　ディワス・ラズ・ボホラ医師（AMDAダマック病院内科医）
◇事業内容

2月23日より3月4日までの日程で、ネパールにて

佐藤拓史医師による内視鏡技術研修が実施された。

今回主に研修を受けるのは同病院で内視鏡を担当するディワス医師、2015年4月のネパール地震で甚大な被害を受けたシンドゥパルチョック市での緊急医療支援活動で、内視鏡の専門家である佐藤医師に出会い、2016年8月から岡山済生会総合病院において岡山県海外技術研修員として約3カ月間の内視鏡治療に関する研修を終了している。

今回の研修は、内視鏡がまだまだ普及していないダマック市において内視鏡の技術向上を目指し、上部消化管内視鏡検査の技術的指導、病変の診断等についてディワス医師含む、AMDAダマック病院医師らは佐藤医師の指導を受けた。この期間中、食道静脈瘤、消化管出血の疑い、心窩部痛等で20歳から75歳までの22人の患者に内視鏡を施行した。

ディワス医師が済生会総合病院での研修を終え帰国してから8カ月後、AMDAダマック病院がAMDA本部の支援で内視鏡を導入。それから3カ月、間近で常にディワス医師の内視鏡検査の補助をしていた看護師は、今回の研修でディワス医師の技術の確実な進歩を目の当たりにし感動していた。また、日本からの内視鏡医師の訪問

を知った患者の数は日増しに増え今回の研修期間には内視鏡を受けることのできない方も多く、ぜひ来年も来て直接治療をして欲しいとの要望が多く寄せられた。

佐藤医師は、「ダマックには内視鏡検査と治療が十分に出来る医師はいまだにおらず、ダマック病院のディワス医師が独り立ちできるようになることが大変重要だと痛感した。これはAMDAダマック病院のスタッフや地域住民の皆さんが望んでいることでもある」と継続的教育の重要性を訴えた。

医療支援事業

■インドネシア口唇口蓋裂無料手術プロジェクト

◇**実施場所**　インドネシア・バンタヤン地区
◇**実施期間**　2017年5月8日～10日
◇**派遣者**　ニッティヤン・ヴィーラヴァーグ／調整員／AMDAインターナショナル事務局長
◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成**

AMDA本部職員、AMDAインドネシア支部、台湾IHA（台湾国際医療支援チーム）、マカッサルセレベス・クレフトセンター

◇**受益者**　23人
◇**受益者の声**

「（手術を受けた）当人や子供達の人生に大きな転機をもたらしてくれた。心から感謝したい。」

◇**事業内容**

今回で3度目となる口唇口蓋裂無料手術が2017年5月8、9日、インドネシアのスラウェシ島南部バンタヤン地区で行われた。毎年恒例となったこのプロジェクトは、長い間共に活動してきた台湾IHA（台湾国際医療支援チーム）と実施している。

今回の活動は、AMDAインドネシア支部が選出したバ

ンタヤン総合病院で実施。台湾から医師3人を含めた医療チーム11人、AMDA本部から調整員1人、さらに現地ではマカッサルのセレベス・クレフトセンター（CCC）から19人（外科医5人、麻酔医4人、看護師10人）が参加した。

5月8日朝から手術希望者全員のスクリーニングが行われ、対象者を8日と9日の手術日程に分け、合計23人の患者の手術が朝から夜遅くまで行われた。

翌日である10日には、地元の知事が謝恩会を開催、知事とバンタヤン総合病院長は謝意を表し、AMDAインドネシア支部長及び手術を受けた本人や家族からも参加者たちに感謝の言葉を贈った。

また、前年に手術を受けた患者の写真も紹介され、多

くの人々が自信を取り戻し、幸せな生活を送っていると報告もあった。

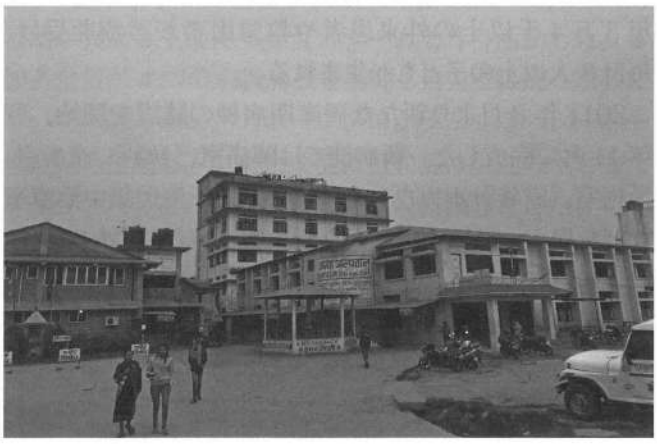
■モンゴル国視能訓練技術移転プラン事業

◇**実施場所**　モンゴル・ウブルハンガイ県グチンウス村
◇**実施日**　2017年9月1日
◇**派遣者**　高﨑裕子／川崎医療福祉大学感覚矯正学科教授、守田好江／日本視能訓練士協会顧問、菅波茂／医師／AMDAグループ代表、難波妙AMDA GPSP支援局長、矢部賢次、矢部朝子／AMDAボランティア
◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成**
AMDA本部職員・ボランティア、川崎医療福祉大学感覚矯正学科、人類愛善会モンゴルセンター、モンゴル眼科協会AMDAモンゴル、AMSAモンゴル、AMSAモンゴル卒業生
◇**受益者数**　113人
◇**事業内容**
AMDAは、モンゴルで2008年以来、眼科を通じた医療支援活動を行っており、2012年からは毎年、子どもの目の健康を守るために、首都ウランバートル市内や郊外での眼科健診を行ってきた。また同時に就学前子どもの眼科健診を制度化することの重要性を関係各方面に訴え続けてきた。
今年度も人類愛善会モンゴルセンターのご協力のもと、ウブルハンガイ県グチンウス村（首都ウランバートルから車で11時間）において川崎医療福祉大学感覚矯正学科の高﨑裕子先生を中心に眼科健診が行われた。今年は、113人（5～17歳の子ども78人、成人は35人）が健診を受け、そのうち斜視は5人、そして7人が病院への紹介が必要な状況にあることが今回判明した。
この健診後、モンゴル保健省に過去3年間の健診結果として、弱視、乱視の割合が世界の平均値より高いこと、眼鏡をかければ解決できる子も半分はいることなどを報告した。保健省は今までの事業を通じ眼科健診の重要性を認識、9月15日を「子どもの目の日」として制定し健診を行っていくことを発表した。

友好病院事業

■ネパール・AMDAダマック病院

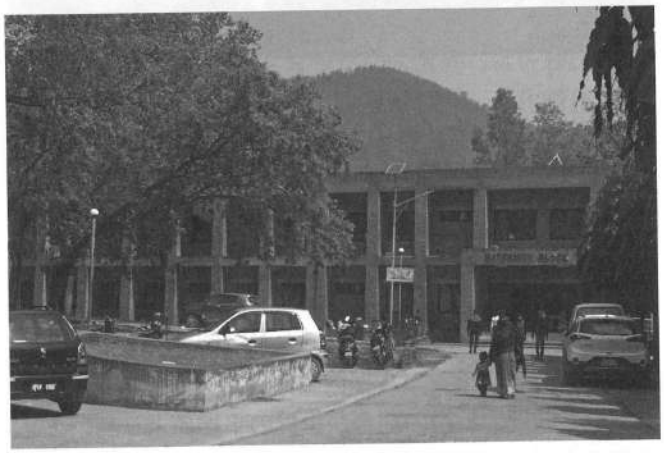
◇**実施場所**　ネパール・ジャパ郡ダマック市
◇**実施期間**　1992年～継続中
◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成**
AMDAネパール支部
◇**診療科**　麻酔科、一般科、外科、産婦人科、小児科、放射線科、整形外科医、耳鼻科、歯科、眼科
◇**スタッフ数**　159人（うち医師24人、看護師42人）
◇**患者数**（2017年度）　2万6千人以上
◇**事業内容**
AMDAネパール支部を実施主体として、1992年よりメチ県ジャパ郡ダマック市で、ブータン難民と地元双方の医療支援の対象として開設した。
今年度の外来患者数は2万6千人以上、年間分娩数は7千人を超えるなど、前年度より増加傾向にある（2016年度外来患者数：2万人以上、年間分娩数：6千人以上）。



今年度は産婦人科医のブダトォキ・ビマラ医師が来岡、2か月以上岡山済生会総合病院にて腹腔鏡手術を中心に学んだ。更に、佐藤拓史医師（東亜大学医療学部教授）がAMDAダマック病院にて同病院内科医のディワス・ラズ・ボホラ医師を中心に内視鏡技術の研修を実施するなど、AMDAを通し医療技術の習得にも努めた。
また、在ネパール日本大使館の草の根・人間の安全保障無償資金協力により、2017年10月にICUユニットの増設が完成、診療を開始した。

■ネパール・シッダールタ母と子の病院
（通称：ネパール子ども病院）

◇**実施場所**　ネパール・ルパンデ郡ブトワル市
◇**実施期間**　1998 年～継続中
◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成**
AMDA ネパール支部
◇**診療科**　産婦人科、小児科、新生児科
◇**スタッフ数**　186 人（うち医師 24 人、看護師 65 人）
◇**患者数**（2017 年度）　約 34,000 人



◇**事業内容**
1998 年 11 月、阪神淡路大震災後の日本とネパールの多くの支援者の協力により設立された、首都以外では唯一の母子専門病院。

設計は安藤忠雄建築事務所がボランティアで協力。毎年 3 万 4 千以上の外来患者や救急患者が診療を受け、毎日 8 人以上の子どもが生まれる。

2011 年 8 月より新たな周産期病棟の建設を開始、翌年 11 月に完成した。新病棟では陣痛室、分娩室、産褥室、手術室、家族計画カウンセリング室、新生児集中治療室などを備え、妊娠・出産から新生児ケアを総合的に管理できるよう配慮している。

■ネパール・AMDA メチ病院

◇**実施場所**　ネパール・ジャパ郡メチナガル市
◇**実施期間**　2008 年～継続中
◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成**
AMDA ネパール支部
◇**診療科**　一般科
◇**スタッフ数**　18 人（うち医師 3 人、看護師 3 人）
◇**患者数**（2017 年度）　約 4,000 人

◇**事業内容**
2008 年に在ネパール日本大使館、メチナガル市役所、商工会議所の支援によって設立。現在、AMDA ネパール支部、市役所及び商工会議所の共同プロジェクトとして運営している。

メチナガル市民だけでなく周辺の村々に住む住民が怪我や一般的な疾患のためこの病院を訪問。2017 年度は緊急外来、一般外来及び入院患者含め約 4,000 人の患者に保健医療サービスを提供した。

その他

■全国屈指福祉フォーラム開催

◇**実施場所**　国民宿舎・サンロード吉備路（総社市三須）
◇**開催日**　2018 年 3 月 3 日
◇**主な参加者**　蒲原基道／厚生労働事務次官、葛西健／ WHO 西太平洋地域事務局事業統括部長、松田久／岡山経済同友会代表幹事、片岡聡一／総社市長、菅波茂／AMDA グループ代表、総社市民ら約 350 人
◇**事業内容**
「総社市の挑戦～全国屈指の福祉先駆都市へ～」を

テーマにした同市と AMDA 主催の「福祉フォーラム」が 2018 年 3 月 3 日、総社市三須の国民宿舎・サンロード吉備路で開かれた。

菅波茂 AMDA グループ代表がコーディネーターを務

め、コメンテーターとして蒲原基道厚生労働事務次官、葛西健 WHO 西太平洋地域事務局事業統括部長、松田久岡山経済同友会代表幹事、片岡聡一総社市長が討議した。

菅波代表は、障がい者 1,500 人雇用を目指す総社市の取り組みについて「飛鳥時代から慈悲の心の精神風土が息づき、今に続いている」と指摘。蒲原氏は「弱者とともに一緒に生きていくことが大切。総社市のノウハウを広く発信してほしい」と述べた。

葛西氏は「アジア諸国は日本の先行事例に興味を持っている。市長、議会、市民が一体となって福祉の先駆都市を目指してほしい」と要望。片岡市長は「弱者に優しいまちづくりが市に品格を持たせる。少子化の中で総社市は人口も増えており、さらに輝くまちづくりを目指したい」と意欲を示した。

松田氏は近い将来、発生が懸念される南海トラフ地震について言及し「総社市は災害支援、被災者受け入れといった全国でも珍しい条例を相次いで制定している。経済界も“流通備蓄”を含めた支援をしていきたい」と述べた。

教育支援

グローバル人財育成事業

■ AMDA 中学高校生会

◇**実施場所**　国内：岡山県岡山市、赤磐市、高知県黒潮町　国外：スリランカ

◇**実施期間**　1995 年～継続中

◇**事業内容**

県内の中学生、高校生 36 人、他県から 2 人合計 38 人のメンバーで活動している AMDA 中学高校生会(以下、中高生会）は国際協力や災害・防災をテーマに毎月 1 回以上の定例会を持ち、計画や内容を話し合い活動している。今年度の主な活動については以下のとおり。

◆ AMDA スリランカ紛争後復興支援平和構築プログラム青少年交流事業

26 年間近くも続いたスリランカでの内戦終結より 2 年後の 2011 年以降、医療和平の活動の一部として、異なる民族（シンハラ、タミル)、異なる宗教（仏教、ヒンズー教、イスラム教、キリスト教）の生徒たちが交流する「AMDA スリランカ平和構築プログラム」を継続して実施している。悲しい内戦の歴史を乗り越え、お互い交流することで相互理解を図り次世代の意識改革を目標としている。中高生会も 2015 年より参加しており、今年度は 8 月 5 日から 3 日間スリランカ中央部に位置するマータレーで開催された本プログラムに、4 人のメンバー

がマータレー、キリノッチ、トリンコマリーの生徒たちと一緒に参加した。3 日間の中で宗教・スポーツ・カルチャープログラムが行われ、国、学校、民族、性別、宗教、言語が異なる生徒たちが混合チームを作り活動した。参加者全員が 4 つの宗教施設を訪問し自分とは違う宗教について理解を深め、スポーツプログラムではバレーボールの試合を楽しみ、文化交流については現地の子どもたちはダンス等を、中高生会は空手の披露等をした。中高生会のメンバー達は最初は言語が通じない等でとまどったが、活動が進むにしたがい参加者とも打ち解け、2 日目夜のキャンプファイアーでは参加者全員で岡山夏の風物「うらじゃ踊り」で盛り上がった。最終日には、3 日間寝食を共にして仲良くなった友達との最後の時間を惜しみ、涙もあふれていた。参加したメンバーの顔は過去の悲劇を繰り返さない、宗教、民族、言葉が違っても仲よくできるという自信に満ち輝いていた。「皆の共通言語は笑顔だ」と言い切っている中高生会メンバーは今後も本プログラムに継続して取り組み、平和な社会を目指したいと考えている。

◆高知県黒潮町の中学生高校生との防災教育取り組み交流会

AMDA と黒潮町が南海トラフ災害に備え 2015 年 2 月に連携協力協定を締結したのがきっかけで、7 月 29 日に中高生会の 3 人が黒潮町を訪れ交流会を開催した。黒

潮町にある３中学・高校より合計 16 人の中高校生（町立佐賀中学校４人、町立大方中学校４人、高知県立大方高校６人）、及び黒潮町役場より防災担当、教育委員会職員の方々、先生方が参加し各学校の取り組みを紹介した。佐賀中学校は「つながりはぬくもり」のタイトルで保育園と小学校、中学校合同の訓練の紹介やテレビ電話でメキシコの中学生の合同津波避難訓練を実施したことを紹介した。大方中学校は「犠牲者ゼロを目指す」をテーマに１年生時からいろいろな場面を想定した防災教育の取り組みを紹介。大方高校は「高校生から広げる防災」をテーマに保育園児から高校生までが訓練を通し助け合う必要性について発表した。そして中高生会は東日本大震災復興支援として現地を訪問した様子等を紹介し、大震災で学んだことを今後に生かす重要性を語った。交流会に参加した中高生会メンバーはこの活動について「黒潮町の危機感にあふれた防災訓練の様子を紹介されすごいと思った」「私たちも二次災害にも備え、真剣な取り組みが必要と感じた」と感想を述べた。

◆平成 29 年度高校生「地域防災ボランティアリーダー」養成研修（岡山県教育委員会主催）で体験発表

８月１日、岡山県内の高校生を対象に「地域防災ボランティアリーダー研修」が岡山県立芳泉高等学校で開かれ、中高生会から６人が参加し体験発表を行った。この研修は防災に対する意識を高め、災害時に様々な活動で社会貢献できる人材育成を目的に毎年行われ中高生会は今年で４回目の参加となった。「中学生・高校生にできる災害への取り組み」と題し発表した。東日本大震災に関するボランティア活動の様子については震災時の募金活動、絆コンサート、ボランテイアバスによる現地での対話、被災地間交流の一つである復興グルメＦ－１大会でのボランティア活動等を報告した。また南海トラフでの災害にも触れ、若者が取り組む大切さと内容を発表、有事の時は相互扶助の精神で乗り越えていこうと、呼びかけた。

その他の活動

・４月 ペルー洪水被災者への募金活動
・５月 ザグフェス AMDA ブースでのボランティア活動
・９月 岡山県立大学集中講義での発表（中学生・高校生にできる災害への取り組み）等
・11 月スリランカ紛争後復興支援平和構築プログラム活動報告（第１回 AMDA・赤磐市防災国際フォーラム）

■インターン受入

①井上瑠七さん（名桜大学国際学群国際文化専攻３年）

◇**実施場所**　AMDA 事務所
◇**実施期間**　2017 年８月 21 日～９月１日
◇**期間中の業務内容**　インドピースクリニックにて使用する母子教育に関する英語パンフレットの再編など

◇**インターン後の感想**

沖縄県名護市にある名桜大学国際学群国際文化専攻３年生です。2017 年８月 21 日から９月１日までの２週間、AMDA でインターンシップを行いました。

国際問題に関心があり、大学のゼミでは主に国際貢献や国際政治について勉強しています。

AMDA で学んだことは、様々な支援の方法があることです。海外で学校健診を行い健康の大切さを教えたり、洪水被害があった国へ支援に向かったりしていました。

また、南海トラフ地震津波の大被害を想定し、事前に入念に支援準備をしていることに驚きました。

私は将来、東南アジアと日本をつなぐ仕事をしたいと考えています。今回のインターンシップの経験を生かし、常に先のことを想定しながら、人々のニーズに応えられる人材になれるよう努力していきます。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

②シオン・マエダ・コウさん（シンガポール・高校生）

◇実施場所

AMDA 事務所、AMDA 大槌健康サポートセンター等

◇実施期間　2018 年 1 月 4 日～1 月 31 日

◇期間中の業務内容　英語によるプレゼンテーションや記事原稿等の作成、AMDA 中学高校生会のパンフレットの英語翻訳、東日本大震災復興支援活動地訪問

◇インターン後の感想

相互扶助など AMDA の理念が勉強でき、素晴らしい経験でした。大人になったら積極的にボランティア活動に取り組みたいと思います。

AMDA でのインターンにおいて、人の役立つことが大きな喜びであることを学び、モチベーションが上がりました。この体験を大切にし、今後も（心の中で）AMDA と一緒に歩んでいきます。

こども食堂支援 プラットホーム事業

■こども食堂支援プラットフォーム設立

◇実施場所　岡山国際交流センター

◇開催日　2017 年 12 月 23 日

◇主な参加者・団体　赤磐市、備前市、和気町、岡山商工会議所連合会、岡山経済同友会、岡山県立大学、川崎医療福祉大学、ライオンズクラブなど

◇参加者数　約 100 人

◇事業内容

地域の大人が子どもに無料または低額で食事を提供する「こども食堂」は、岡山県内でも地域のボランティアによって開設が相次いでいる。AMDA はこの食堂を支援するため、重点事業として取り組むための母体組織となる「AMDA こども食堂支援プラットフォーム」を設立した。県内のこども食堂は 40 ～ 50 団体とされ、今後も増える見通し。

推進組織としてはプラットフォーム世話人会を設け、代表には赤磐市長の友實武則氏が就任。県内で「こども食堂」研究の第一人者とされる川崎医療福祉大学講師の

直島克樹氏が事務局長に就任した。

顧問には、沖陽子・岡山県立大学副学長、秋山祐治・川崎医療福祉大学副学長らに依頼した。

AMDA は 2018 年 3 月、こども食堂に携わる 4 団体に県内産のお米を要望に沿って配布した。今後も年 4 回のペースで実施予定。

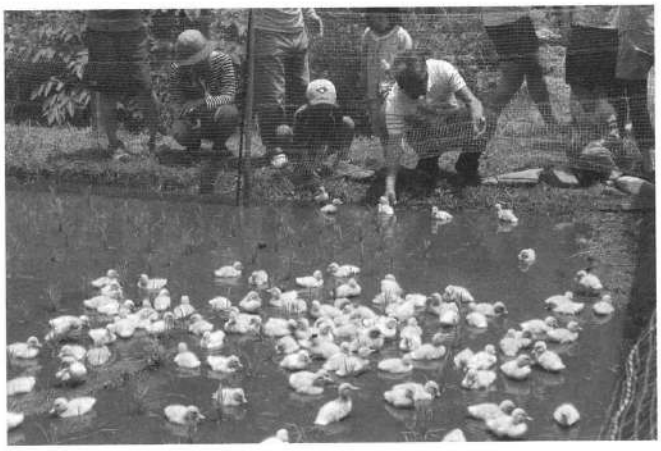
調味料や副食費の支援準備も進めており、岡山商工会議所連合会、岡山経済同友会の加盟企業などの協力により進めている。鶏卵・鶏肉販売のアルムの里（赤磐市）、日生漁協（備前市）には、こども食堂に対し安価で対応していただくなど産官学民の支援の輪が広がっている。

生活支援

有機農業事業

■ AMDA フードプログラム

◇**実施場所**　岡山県新庄村、インドネシア・マリノ村
◇**実施期間**　2012 年 4 月 1 日～継続中
◇**従事者**　アロイシウス・シタミ／ AMDA 連携野土路農場長、田中俊祐／ AMDA 本部職員
◇**事業内容**
「食は命の源」をコンセプトに、アジアに有機農業を普及することを目的とした AMDA フードプログラムを 2012 年度より開始している。同年度より岡山県真庭郡新庄村の野土路地区に農場を開設、アヒルを使った無農薬有機稲作栽培を中心とした農業を実施している。



◆野土路農場
2012 年の AMDA 野土路農場（現 AMDA 連携野土路農場）開設以降、アヒルを使って無農薬でコシヒカリやヒメノモチ、野菜を栽培している。
今年度は 6 月 3 日には稲の苗を手で植える、昔ながらの田植え祭を実施。ＪＲ岡山駅からバスで現地に到着した 12 人が参加し、7 アールの水田に入り、コシヒカリの苗を約 1 時間かけ、横に張った糸を目印に植えていった。大半は初めての体験だったが、次第に慣れていった。続いて、害虫駆除に役立つ生後 3 日ほどのアヒル約 100 匹を次々と水田に放鳥した。そして、三味線や太鼓の音に合わせた「新庄田植え踊り」で雰囲気を盛り上げた。
尚、AMDA は毎年プロジェクト関係国の在日公館を表敬訪問し、野土路農場で収穫した米を贈呈しているが、今年は悪天候等により AMDA フードプログラムが目指す米として同じ野土路地区の無農薬米を贈呈した。

◆マリノ村有機農業実践圃場
野土路農場では、2013 年にインドネシアから研修生イカワティ氏を受け入れた。イカワティ氏は半年間、新庄村で研修を受けた後、彼女の故郷であるゴワ県マリノ村にて、現在も有機農業の普及活動を継続している。
このマリノ村は山岳地帯にある農村地帯で農業が主な産業だが、ほとんどの人たちが農業だけでは生活できず、稲が育たない乾季には近くの都市に数か月間出稼ぎに出ている状況である。この状況をふまえ、AMDA は 2014 年に有機農業普及事業のパイロットファームとして AMDA マリノ農場を開設し、イカワティ氏と地元の若手農家ジャマルがスタッフとして常駐、これまでに有機栽培にて米を作り、翌年には駐在の日本人を中心にマリノ農場の米は通常の 3 倍の値段で完売した。この評判により当初 1 軒だった有機栽培農家は 2018 年 3 月現在 12 軒に増加した。イカワティ氏は「今はまだ販売に AMDA からの力を借りているが、将来農家自身が販売のすべてを手掛けられるようになれたら」と、他の農家に肥料のやり方や稲の害虫防除等について助言を行っている。

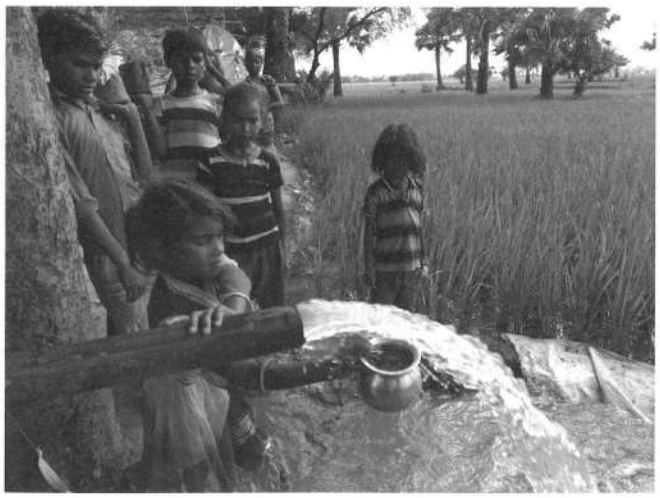
その他

■インド　ブッダガヤ　シュリプール村生活支援プログラム

◇**実施場所**　インド・ビハール州ブッダガヤ
◇**実施期間**　2017 年 7 月～継続中
◇**派遣者**　菅波茂／医師／ AMDA グループ代表、難波妙／調整員／ AMDA GPSP 支援局長、ニッティヤン・ヴィーラヴァーグ／調整員／ AMDA インターナショナル事務局長、岩本智子／看護師（米国資格）・調整員／ AMDA 本部職員
◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成**
シュリプール村担当者 1 人、AMDA 現地担当者 2 人
◇**受益者数**　12 世帯（2017 年度）
◇**事業内容**
2017 年 7 月から、インド・ビハール州ブッダガヤにあるシュリプール村での生活支援を AMDA ピースクリニックに以前勤務していたヴェーダ氏を中心に始めた。

村にあるお年寄りの家へのお米の提供、村の住民に対する農業用井戸設置支援、住民交流のための祈りの場に対する支援を実施。特に農業用井戸は水脈に当たるかどうかわからなかったが、掘り始めてから約23メートルの地点でついに水が出たことに村の住民は歓喜に沸いた。

加えて、今年は電線の一部が故障し、農業用井戸水を引き上げるモーターに必要な電気が一時期停電したため、お米の収穫量に大きな影響を与えた。今後、そのような状況を回避するべく、AMDAはシュリプール村用に発電機を購入、停電しても村の人たちが一定量の食料を確保できるよう備えている。



連携協力協定調印

■国内連携協力協定調印

・ムネ製薬株式会社	5月15日
・阿南市、牟岐町、海陽町	5月30日
・岡山県鍼灸師会	7月22日
・朝日医療大学校	8月25日
・岡山流通情報懇談会	9月18日
・公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院	10月12日
・有限会社アイ薬局	12月26日
・医療法人創和会 しげい病院	2月 1日

■海外連携協力協定調印

・欧州日本人医師会	4月24日
・ネパール・トリブバン大学医学部	7月 6日
・中国・ラッフルズメディカルインターナショナル	11月 2日
・インド・ガヤ大学	11月14日
・フィリピン大統領府	11月27日
・フィリピン開発安全女性委員会	11月27日
・パキスタン医師会	12月16日
・ムスリムインドネシア大学医学部	1月20日
・バングラデシュ・腹腔鏡外科協会	1月20日
・バングラデシュ医師会	1月21日
・バングラデシュ・ダッカ大学コミュニケーション障がい学部、ダウン症協会（三者協定）	1月22日
・国連パレスチナ難民救済事業機関	2月 1日

AMDA 団体概要

所在地	〒700-0013　岡山県岡山市北区伊福町 3 丁目 31-1
設立年月日	1984 年 8 月 国連経済社会理事会「総合協議資格」取得　2006 年 認定 NPO 法人に認証　2013 年 5 月 8 日付
AMDA グループ構成団体	認定 特定非営利活動法人アムダ：AMDA AMDA インターナショナル（任意団体） 認定 特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構 特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター アムダ兵庫（任意団体）
海外活動	緊急医療支援、難民医療支援、復興支援、合同医療ミッション、スポーツ親善交流、フードプログラム、ASMP、セミナー開催等
活動国	日本、ネパール、パキスタン、インドネシア、ハイチ、モンゴル、インド、ルワンダ、ペルー、スリランカ、フィリピン、メキシコ、バングラデシュ、カンボジア　他
国内活動	復興支援、フードプログラム、こども食堂支援、出張講演、大学講義受託、活動報告会・セミナー開催、AMDA 中学高校生会、イベント参加、南海トラフ地震対応医療チーム派遣準備　等
AMDA 支部	沖縄支部、神奈川支部
AMDA クラブ	大槌、鎌倉、高知、玉野、福山、竹原、神女（神戸女子大学）　各クラブ
スタッフ	常勤 11 人 非常勤 4 人 嘱託 9 人
会員数	791 人
ER ネットワーク登録者数	589 人

2018 年 7 月 1 日 現在

認定　特定非営利活動法人　アムダ　役員

理事長	菅波　茂	認定特定非営利活動法人アムダ
理　事	大土　吉子	元岡山県生活環境政策スタッフ
理　事	佐藤　拓史	医師　東亜大学医療学部教授　モンゴル国立医科大学招聘教授
理　事	菅波　知子	医師
理　事	中西　泉	医師　医療法人社団慶泉会町谷原病院　理事長
理　事	難波　妙	認定特定非営利活動法人アムダ　GPSP 支援局長
理　事	難波比加理	認定特定非営利活動法人アムダ 財務部長
理　事	野島　治	元倉敷市教育委員会　嘱託啓発指導員・小学校校長
監　事	渡丸　弘之	公認会計士

2018 年 7 月 1 日 現在
（理事名　五十音順）

※多くのボランティアの皆様に支えられて様々な活動を実施することができました。
心より感謝申し上げます。

国内の動き

■講義

神戸女子大学、玉野医療専門学校、順正高等看護福祉専門学校、就実大学、相生市看護専門学校、岡山県立大学大学院、山陽学園大学、広島市立大学、旭川荘厚生専門学院、大学コンソーシアム岡山、岡山医療福祉専門学校、山陽学園大学大学院、福山市医師会看護専門学校、岡山大学、山口県立大学、ノートルダム清心女子大学

■講演

清心女子高校、岡山県立津山東高等学校、おかやまコープ新見センター、NPO 法人 HuMA、岡山県立玉島高等学校、NPO 赤磐市市民活動支援センター、関西学院大学災害復興制度研究所、倉敷市乙島小学校区自主防災組織連絡会、倉敷市立北公民館、WFWP 国際協力シンポジウム実行委員会、岡山市立妹尾小学校 PTA、社会福祉法人恵風会、社会福祉法人旭川荘、岡山県立岡山南高校、岡山市立古都小学校、岡山市立高松公民館、岡山県社会福祉協議会、公益社団法人岡山鍼灸師会、おかやまコープ　備北エリア、岡山県立瀬戸南高等学校、岡山丸の内ロータリークラブ、岡山県立真庭高等学校、岡山市立石井小学校、関西学院大学　災害復興制度研究所、県立倉敷中央高等学校専攻科
（講演時系列）

■研修受け入れ

・ブダトォキ・ビマラ医師（平成 29 年度の岡山県国際貢献ローカル・トゥ・ローカル技術移転事業でネパールより招聘）

■インターンシップ受け入れ

・井上瑠七（名桜大学国際学群国際文化専攻）　8 月 21 日～ 9 月 1 日
・シオン・マエダ・コウ（シンガポールの高校生）　　1 月 4 日～ 1 月 30 日

■主催イベント

・AMDA の集い in 関西	7 月
・第 4 回 AMDA 災害鍼灸チーム育成プログラム	7 月
・第 4 回 AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム調整会議	7 月
・まちかどトーク / 街頭募金	4 月、5 月、6 月、7 月、8 月、9 月、11 月、12 月
・AMDA 西嶋理学療法士ネパール地震復興支援活動報告会	9 月
・第 15 回復興グルメ F-1 大会　ボランティアバス	10 月
・AMDA ルワンダ小児医療・学校保健支援活動報告会	10 月
・第 1 回 AMDA・赤磐市防災国際フォーラム	11 月
・AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム　輸送と通信シミュレーション	11 月
・AMDA こども食堂支援プラットフォーム発足フォーラム	12 月
・第 4 回被災地間交流フォーラム	2 月
・福祉フォーラム 「総社市」の挑戦～全国屈指の福祉先駆都市へ～	3 月

■主な参加イベント

・ザグフェス 2017	5 月
・AMDA 連携野土路農場で田植え体験	6 月
・自衛隊演習訓練「南海レスキュー」	6 月
・岡山市防災訓練西大寺ブース参加、備前市防災訓練	9 月
・コープフェスタ 2017　ブース参加パネル展示	9 月
・第 31 回神辺福祉まつり	9 月
・野土路農場稲刈り体験	9 月
・和気ものづくりフェスタ　大国家住宅会場にてパネル展示	9 月、10 月
・第 15 回復興グルメ F-1 大会 in 浪江町	10 月
・「アットホームカフェ」での AMDA コーナー「まちかどトーク」	10 月
・おかやまコープ・AMDA 連携協定 10 周年記念のつどい	10 月
・陸上自衛隊・国際緊急援助隊（JDR）総合訓練参加	12 月
・徳島県南部圏域防災訓練にてパネル展示	12 月
・四国 DMAT 実動訓練	1 月
・咲かせよう美しい花、みんなの夢～ AMDA とともに　第 61 回洋蘭展	2 月
・東日本復興支援チャリティー -from bizen-	3 月
・チャリティーオークション「倉敷からの風」	3 月

活動計算書

平成29年 4月 1日から平成30年 3月31日まで

特定非営利活動法人　アムダ

（単位：円）

科　　目	金　　額		
Ⅰ 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	420,000		
医師会員受取会費	1,215,000		
一般会員受取会費	4,070,000		
学生会員受取会費	18,000		
法人会員受取会費	1,110,000		
賛助会員受取会費	508,000	7,341,000	
2. 受取寄附金			
受取寄附金	52,453,865	52,453,865	
3. 受取助成金等			
受取民間助成金	603,073	603,073	
4. 事業収益			
事業収益	307,105		
業務受託収益	3,600,000	3,907,105	
5. その他収益			
受取利息	17,517		
雑収益	52,160	69,677	
経常収益計			64,374,720
Ⅱ 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
給料手当	31,570,398		
法定福利費	4,737,785		
退職給付費用	653,450		
福利厚生費	710,690		
派遣費	1,552,376		
人件費計	39,224,699		
(2) その他経費			
業務委託費	18,277,156		
諸謝金	44,545		
印刷製本費	2,664,931		
会議費	1,048,127		
旅費交通費	22,774,632		
通信運搬費	5,082,707		
消耗品費	5,070,042		
渉外費	1,204,028		
修繕費	135,388		
水道光熱費	390,144		
地代家賃	1,787,372		
賃借料	4,499,085		
減価償却費	497,849		
保険料	583,640		
諸会費	17,000		
租税公課	41,282		
研修費	24,000		
支払手数料	335,064		
支払助成金	360,000		
為替差損	91,105		
新聞図書費	64,438		
燃料費	116,467		

科　　目	金　　額		
医療消耗品費	5,495,589		
栄養給食費	2,332,315		
活動器材費	78,742		
農業関連費	2,030		
雑費	275,921		
その他経費計	73,293,599		
事業費計		112,518,298	
2. 管理費			
(1) 人件費			
役員報酬	540,750		
給料手当	5,725,577		
法定福利費	1,037,345		
退職給付費用	3,616,050		
福利厚生費	578,117		
人件費計	11,497,839		
(2) その他経費			
印刷製本費	158,360		
会議費	43,446		
旅費交通費	293,609		
燃料費	44,001		
通信運搬費	920,096		
消耗品費	2,000,125		
渉外費	265,043		
修繕費	13,740		
水道光熱費	185,368		
賃借料	2,036,354		
減価償却費	667,235		
保険料	71,125		
諸会費	10,000		
租税公課	97,033		
支払手数料	636,866		
業務委託費	1,448,496		
新聞図書費	74,232		
為替差損	2,355,973		
雑費	41,833		
その他経費計	11,362,935		
管理費計		22,860,774	
経常費用計			135,379,072
当期経常増減額			△ 71,004,352
Ⅲ 経常外収益			
経常外収益計			0
Ⅳ 経常外費用			
1. 固定資産除・売却損			
固定資産除・売却損	140,879	140,879	
経常外費用計			140,879
税引前当期正味財産増減額			△ 71,145,231
当期正味財産増減額			△ 71,145,231
前期繰越正味財産額			537,626,285
次期繰越正味財産額			466,481,054

貸借対照表

平成30年 3月31日現在

特定非営利活動法人　アムダ

（単位：円）

科　　目	金　　額		
Ⅰ 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	342,702,479		
未収会費	60,000		
棚卸資産	2,093,081		
前払金	781,980		
前払費用	2,127,288		
仮払金	8,053,938		
立替金	212,909		
流動資産合計		356,031,675	
2. 固定資産			
(1) 有形固定資産			
建物	5,971,662		
車両運搬具	2,027,764		
什器備品	5,667,301		
建物附属設備	719,250		
減価償却累計額	△ 4,639,482		
有形固定資産計	9,746,495		
(2) 無形固定資産			
無形固定資産計	0		
(3) 投資その他の資産			
リサイクル預託金	19,530		
敷金	60,000		
緊急人道支援特定預金	8,508,590		
東日本震災特定預金	67,113,303		
東日本奨学特定預金	442,323		
プロジェクト準備金	33,960,068		
投資その他の資産計	110,103,814		
固定資産合計		119,850,309	
資産合計			475,881,984
Ⅱ 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	8,896,333		
前受金	30,000		
預り金	474,597		
流動負債合計		9,400,930	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			9,400,930
Ⅲ 正味財産の部			
前期繰越正味財産		537,626,285	
当期正味財産増減額		△ 71,145,231	
正味財産合計			466,481,054
負債及び正味財産合計			475,881,984

財 産 目 録

平成 30 年 3 月 31 日 現在

特定非営利活動法人　アムダ

（単位：円）

科　　目		金　　額		
Ⅰ 資産の部				
1. 流動資産				
現金預金				
	現金	6,037,883		
	普通預金	280,676,857		
	定額預金	10,000,000		
	外貨預金	45,987,739		
未収会費		60,000		
棚卸資産		2,093,081		
前払金				
	図書製本費（印刷製本費）	225,000		
	賃借料	556,980		
前払費用		2,127,288		
仮払金　東日本その他海外事業		8,053,938		
立替金		212,909		
流動資産合計			356,031,675	
2. 固定資産				
(1) 有形固定資産				
建物		5,971,662		
車両運搬具		2,027,764		
什器備品		5,667,301		
建物附属設備		719,250		
減価償却累計額		△ 4,639,482		
有形固定資産計		9,746,495		
(2) 無形固定資産				
無形固定資産計		0		
(3) 投資その他の資産				
リサイクル預託金		19,530		
敷金		60,000		
緊急人道支援特定預金		8,508,590		
東日本震災特定預金		67,113,303		
東日本奨学特定預金		442,323		
プロジェクト準備金		33,960,068		
投資その他の資産計		110,103,814		
固定資産合計			119,850,309	
資産合計				475,881,984
Ⅱ 負債の部				
1. 流動負債				
未払金				
通信運搬費		463,113		
業務委託費		610,000		
消耗品費		101,592		
法定福利費		877,982		
退職給付費用		3,616,050		
給与		2,980,008		
印刷製本費		53,460		
旅費交通費		59,288		
保険料		18,460		
福利厚生費		116,380		
前受金		30,000		
預り金		474,597		
流動負債合計			9,400,930	
2. 固定負債				
固定負債合計			0	
負債合計				9,400,930
正味財産				466,481,054

2017 年度　計算書類の注記

1、重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO 法人会計基準（2011 年 11 月 20 日　NPO 法人会計基準協議会）によっています。

（1）棚卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法による原価法により評価を行っています。

（2）固定資産の減価償却の方法

有形固定資産については間接法による定額法により減価償却を行っています。無形固定資産については直接法による定額法により減価償却を行っています。

（3）消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によつています。

2、事業別損益の状況

特定非営利活動法人　アムダ

（単位：円）

科　目	低開発地域等における社会開発事業	緊急人道支援事業	災害救援事業（東日本救援事業）	災害救援事業（東日本奨学金事業）	平和構築モデルの開発と運営に関する事業	各種会議、講演会、講座等の企画運営事業	各種調査研究、教育、研修事業	情報誌並びに対外的広報誌及び書籍の刊行	有機農業及び有機農業の推進に関わる事業	事業部門	管理部門	合　計
Ⅰ 経常収益												
1. 受取会費												
正会員受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	420,000	420,000
医師会員受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,215,000	1,215,000
一般会員受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,070,000	4,070,000
学生会員受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18,000	18,000
法人会員受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,110,000	1,110,000
賛助会員受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	508,000	508,000
2. 受取寄附金												
受取寄附金	2,978,420	10,242,588	1,358,821	87,977	5,701,264	0	73,295	0	330,000	20,772,365	31,681,500	52,453,865
3. 受取助成金等												
受取民間助成金	0	215,029	69,700	118,344	0	0	200,000	0	0	603,073	0	603,073
4. 事業収益												
事業収益	15,000	0	0	0	0	0	181,105	111,000	0	307,105	0	307,105
業務受託収益	0	0	0	0	0	0	0	0	3,600,000	3,600,000	0	3,600,000
5. その他収益												
受取利息	0	304	403	0	0	0	0	0	0	707	16,810	17,517
為替差益	9,686	18,630	0	0	6,252	92	0	0	0	34,660	△ 34,660	0
雑収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	52,160	52,160
経常収益計	3,003,106	10,476,551	1,428,924	206,321	5,707,516	92	454,400	111,000	3,930,000	25,317,910	39,056,810	64,374,720
Ⅱ 経常費用												
1. 事業費及び管理費												
(1) 人件費												
役員報酬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	540,750	540,750
給料手当	1,680,000	21,999,572	2,019,826	0	0	0	2,793,000	0	3,078,000	31,570,398	5,725,577	37,295,975
法定福利費	261,898	3,325,533	334,367	0	0	0	319,620	0	496,367	4,737,785	1,037,345	5,775,130
退職給付費用	653,450	0	0	0	0	0	0	0	0	653,450	3,616,050	4,269,500
福利厚生費	67,038	582,740	0	0	0	0	30,162	0	30,750	710,690	578,117	1,288,807
派遣費	952,215	241,194	0	0	327,600	0	31,367	0	0	1,552,376	0	1,552,376
人件費計	3,614,601	26,149,039	2,354,193	0	327,600	0	3,174,149	0	3,605,117	39,224,699	11,497,839	50,722,538
(2) その他経費												
業務委託費	1,650,000	5,923,156	5,640,000	24,000	0	0	2,040,000	0	3,000,000	18,277,156	1,448,496	19,725,652
諸謝金	0	11,137	0	0	0	0	33,408	0	0	44,545	0	44,545
印刷製本費	0	838,726	307,476	0	0	0	85,457	1,433,272	0	2,664,931	158,360	2,823,291
会議費	175,091	330,709	136,838	4,066	20,138	312,608	68,677	0	0	1,048,127	43,446	1,091,573
旅費交通費	5,347,685	9,534,956	2,112,510	289,079	2,198,137	594,167	2,414,173	12,580	271,345	22,774,632	293,609	23,068,241
通信運搬費	586,779	2,346,143	518,512	0	213,593	6,510	173,588	1,194,424	43,158	5,082,707	920,096	6,002,803
消耗品費	626,123	3,789,089	437,979	0	174,585	25,916	16,350	0	0	5,070,042	2,000,125	7,070,167
渉外費	232,381	494,921	151,136	18,459	64,372	141,079	96,448	0	5,232	1,204,028	265,043	1,469,071
修繕費	37,395	0	45,900	0	32,869	0	19,224	0	0	135,388	13,740	149,128
水道光熱費	31,047	114,819	244,278	0	0	0	0	0	0	390,144	185,368	575,512
地代家賃	1,787,372	0	0	0	0	0	0	0	0	1,787,372	0	1,787,372
賃借料	9,600	1,714,156	2,279,058	0	102,072	0	394,199	0	0	4,499,085	2,036,354	6,535,439
減価償却費	0	34,989	462,860	0	0	0	0	0	0	497,849	667,235	1,165,084
保険料	197,280	167,680	187,290	0	76,190	37,860	103,380	0	△ 186,040	583,640	71,125	654,765
諸会費	0	12,000	0	0	0	0	5,000	0	0	17,000	10,000	27,000
租税公課	600	446	39,436	0	0	0	400	0	400	41,282	97,033	138,315
研修費	0	24,000	0	0	0	0	0	0	0	24,000	0	24,000
支払手数料	182,198	59,146	46,710	966	30,608	0	5,560	2,052	7,824	335,064	636,866	971,930
支払助成金	0	0	0	360,000	0	0	0	0	0	360,000	0	360,000
為替差損	49,142	35,122	0	0	2,002	0	4,839	0	0	91,105	2,355,973	2,447,078
新聞図書費	0	60,982	3,456	0	0	0	0	0	0	64,438	74,232	138,670
燃料費	5,423	110,231	813	0	0	0	0	0	0	116,467	44,001	160,468
医療消耗品費	279,035	4,994,373	0	0	222,181	0	0	0	0	5,495,589	0	5,495,589
栄養給食費	28,418	2,088,401	51,000	0	164,496	0	0	0	0	2,332,315	0	2,332,315
活動器材費	0	78,742	0	0	0	0	0	0	0	78,742	0	78,742
農業関連費	0	0	0	0	0	0	2,030	0	0	2,030	0	2,030
雑費	4,470	54,998	0	0	216,453	0	0	0	0	275,921	41,833	317,754
その他経費計	11,230,039	32,818,922	12,665,252	696,570	3,517,696	1,118,140	5,462,733	2,642,328	3,141,919	73,293,599	11,362,935	84,656,534
経常費用計	14,844,640	58,967,961	15,019,445	696,570	3,845,296	1,118,140	8,636,882	2,642,328	6,747,036	112,518,298	22,860,774	135,379,072
当期経常増減額	△ 11,841,534	△ 48,491,410	△ 13,590,521	△ 490,249	1,862,220	△ 1,118,048	△ 8,182,482	△ 2,531,328	△ 2,817,036	△ 87,200,388	16,196,036	△ 71,004,352
Ⅲ 経常外費用												
固定資産除・売却損	0	0	140,876	0	0	0	0	0	0	140,876	3	140,879
経常外費用計	0	0	140,876	0	0	0	0	0	0	140,876	3	140,879
当期正味財産増減額	△ 11,841,534	△ 48,491,410	△ 13,731,397	△ 490,249	1,862,220	△ 1,118,048	△ 8,182,482	△ 2,531,328	△ 2,817,036	△ 87,341,264	16,196,033	△ 71,145,231
前期繰越正味財産額	△ 17,360,538	57,000,000	80,844,700	932,572	△ 4,290,186	△ 6,481,188	△ 29,408,816	△ 11,961,045	△ 20,583,985	48,691,514	488,934,771	537,626,285
次期繰越正味財産額	△ 29,202,072	8,508,590	67,113,303	442,323	△ 2,427,966	△ 7,599,236	△ 37,591,298	△ 14,492,373	△ 23,401,021	△ 38,649,750	505,130,804	466,481,054

3. 使途が制約された寄附金等の内訳
使途が制約された寄附金等の内訳（正味財産の増減及び残高の状況）は以下の通りです。
当法人の正味財産は 466,443,420 円ですが、そのうち 110,024,284 円は使途が特定されています。
したがって使途が制約されていない正味財産は 356,419,136 円です。

（単位：円）

内　　容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備　　考
緊急人道支援事業	57,000,000	10,476,551	58,967,961	8,508,590	国内外で起こる緊急人道支援事業に使用しました
東日本救援事業	80,844,700	1,428,924	15,160,321	67,113,303	東日本復興支援事業に使用しました
東日本奨学金事業	932,572	206,321	696,570	442,323	東日本で医療従事者を目指す学生の奨学金支援事業に使用しました
プロジェクト準備金	35,747,440	0	1,787,372	33,960,068	土地使用料としてインド事業に使用しました （2017 年から毎年 20 年間、取り崩していく計画）
合計	174,524,712	12,111,796	76,612,224	110,024,284	

4. 固定資産の増減内訳

（単位：円）

科　　目	期首取得価額	取　　得	減　　少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産什器備品						
建物	5,971,662	0	0	5,971,662	1,306,300	4,665,362
建物附属設備	719,250	0	0	719,250	373,465	345,785
車両及び運搬具	412,384	1,615,380	0	2,027,764	380,975	1,646,789
器具及び備品	5,051,106	1,625,380	1,009,185	5,667,301	2,578,742	3,088,559
投資その他の資産						
リサイクル預託金	11,630	7,900	0	19,530	-	19,530
敷金	60,000	0	0	60,000	-	60,000
緊急人道支援特定預金	57,000,000	10,476,551	58,967,961	8,508,590	-	8,508,590
東日本震災特定預金	80,844,700	1,428,924	15,160,321	67,113,303	-	67,113,303
東日本奨学金特定預金	932,572	206,321	696,570	442,323	-	442,323
プロジェクト用特定資産	35,747,440	0	1,787,372	33,960,068	-	33,960,068
合　　計	186,750,744	15,360,456	77,621,409	124,489,791	4,639,482	119,850,309

5. 借入金の増減内訳

該当ありません。

6. 役員及びその近親者との取引の内容
役員及びその近親者との取引は以下の通りです。

（単位：円）

科　　目	計算書類に計上された金額	内役員及び近親者との取引
（活動計算書）		
受取寄附金	52,453,865	100,000
賃借料（管理費）	2,036,354	1,334,880
賃借料（事業費）	4,499,085	1,257,120
活動計算書計	58,989,304	2,692,000
（貸借対照表）		
前払金	781,980	216,000
貸借対照表計	781,980	216,000

7. 事業費と管理費の按分方法
事業本部の共通する経費のうち、従事割合の高い東日本・緊急人道支援事業に関しては給料手当・役員報酬及び法定福利費、水道光熱費、通信運搬費、賃借料を従事割合に基づいて按分しています。

スリランカ洪水緊急支援活動

ペルー洪水、フィリピン台風…。2017年度も国内外で自然災害が相次ぎ、AMDAが実施した緊急支援は17件を数えました。

ミャンマーからバングラデシュに逃れたイスラム系少数民族・ロヒンギャ難民は約90万人を数え、AMDAは医師ら10人を相次いで現地に派遣、今後も支援を継続します。

子どもの健やかな成長を願い、低額または無料で食事の場を提供する岡山県内の「こども食堂」を支援するプラットフォームも設立させました。

これら様々な事業の取り組みは、多くの皆さまの温かいご支援のお陰です。心より感謝を申し上げるとともに、引き続きご支援をよろしくお願いします。